

## 第8章 学校以外の教育機関等

第1節	県教育研修センター	167
第2節	県立図書館	176
第3節	県立美術館	182
第4節	県総合博物館	188
第5節	県立西都原考古博物館	195
第6節	県埋蔵文化財センター	199
第7節	スポーツ指導センター	207
第8節	青少年教育施設	217

## 第1節 県教育研修センター

### 1 設置目的

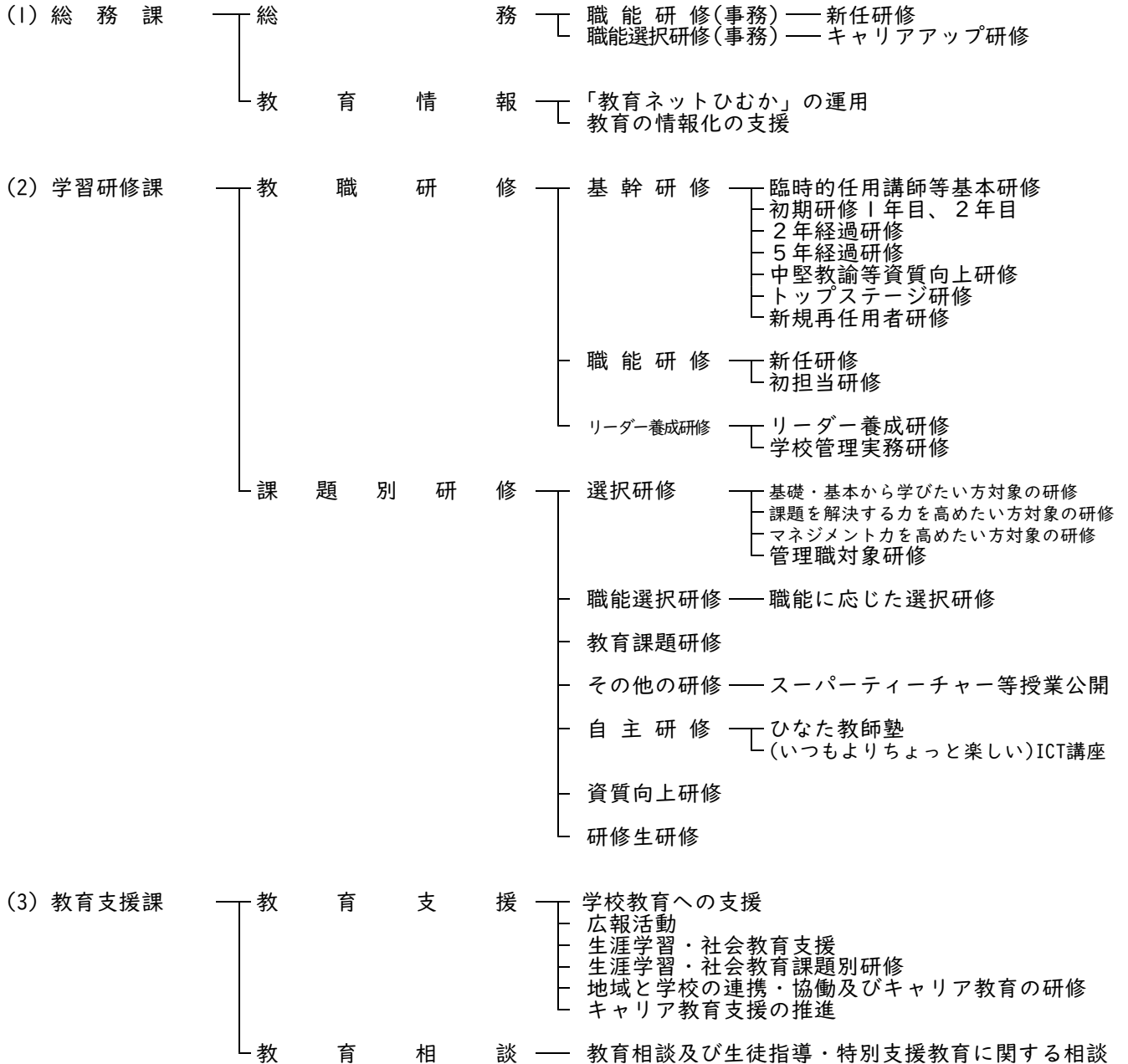
昭和43年4月1日教育機関設置条例の一部を改正する条例（宮崎県条例第8号）により、宮崎県教育研究所を廃止し「教育関係職員の研修及び教育に関する専門的、技術的事項の研究を行う」ことを目的として、宮崎県教育研修センターが設置された。

### 2 施設（令和5年3月31日現在）

設置場所	宮崎市阿波岐原町前浜4276番729		
敷地面積	14,524.32㎡	建物	3,089.59㎡
		本館 2階建	2,781.16㎡
		附属棟（A棟） 1階建	187.54㎡
		附属棟（B棟） 1階建	120.89㎡

### 3 事業の概要（令和4年度）

令和4年度教育施策にのっとり、本県学校教育の向上並びに教育関係職員の資質の向上を図るため、各課が、次の事業を行った。



#### 4 令和4年度事業実績

##### (1) 総務課事業

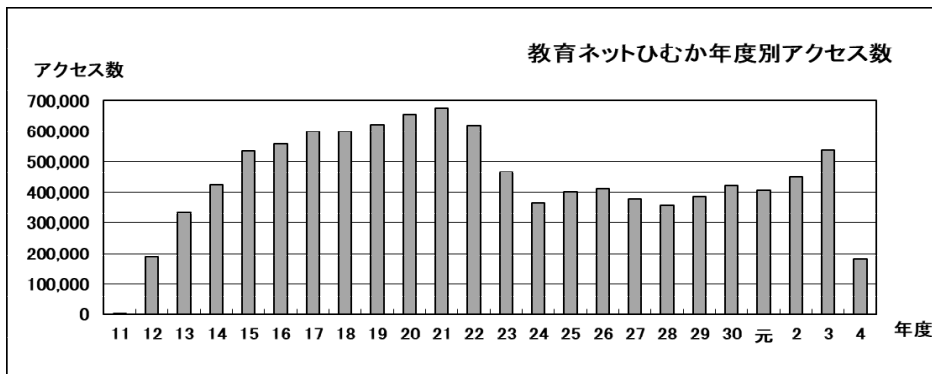
- 総務担当・・・学校事務職員研修（学習研修課事業参照）

- 教育情報担当

ア 「教育ネットひむか」の運用 (<http://himuka.miyazaki-c.ed.jp/>)

「教育ネットひむか」（宮崎県教育情報通信ネットワーク）の更新及び運用を行い、情報通信ネットワークを活用した教育活動の推進を図るなど学校教育の情報化推進に努めた。

- ・「教育ネットひむか」の運用（令和5年3月31日現在 アクセス数累計 10,563,505件）



- ・アカウントの発給 登録者数（令和5年3月31日現在）  
教育関係職員12,262名
- ・その他  
有害・違法情報のフィルタリング、インターネット回線の増強、利用状況の調査、ネットワークシステムの調査研究、ヘルプデスク

##### イ 教育の情報化の支援

情報教育に関する研修や教育用コンテンツ、教育情報等の提供を行い、学校教育の情報化に努めた。

- ・教育の情報化に関する研修の実施
- ・学校Webページの運用支援
- ・ポータルサイトの提供
- ・教育用コンテンツや教育情報の提供
- ・教育用ブログシステムの提供
- ・学校Webページ作成システム（CMS）の提供
- ・インターネット（映像配信システム）を活用した研修の支援（インターネットでe-研修）
- ・情報化コーディネータ派遣

##### (2) 学習研修課事業

- 教職研修担当

ア 基幹研修

[初期研修1年目、2年目]

- ・初期研修の対象となる公立小・中・義務教育学校及び県立学校の教諭、養護教諭、栄養教諭に対して、県教育委員会が定める初期研修実施要項及び初期研修実施計画に基づき、校外研修の一環として基本的な研修を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部オンラインやハイブリッド研修（対面+Zoom）等に研修方法を変更した。
- ・新規採用及び知事部局等から初めて公立小・中学校・義務教育及び県立学校に転任した事務職員（主事、主任主事、事務主査）に対して、事務新任者研修として、学校事務職員としての資質の向上を図ることを目的として、その職務遂行に係る基本的な事項について研修を実施した。

【初期研修1年目】

		小学校教諭	中学校教諭	義務教育教諭	県立学校教諭	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)	7			10	10	10	37
	日数(日)	7			11	10	10	38
②	対象者数(人)	192	76	0	91	14	1	374

※小・中・義務教育学校教諭は、上記に加え、各教育事務所2日間、各市町村教育委員会2日間実施

【初期研修2年目】

		小学校教諭	中学校教諭	義務教育教諭	県立学校教諭	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)	2			2	2	2	8
	日数(日)	2			2	2	2	8
②	対象者数(人)	118	48	1	72	10	3	252

[経験者研修]

- ・教諭等については、採用後2年、5年、概ね10年を経過した者を対象として、一層の指導力の向上を図るため、教育指導上の諸問題について研修を実施した。
- ・養護教諭については、採用後2年、5年、概ね10年を経過した者を対象として、一層の資質の向上を図るため、時代に即した新たな健康問題への対応の在り方等について研修を実施した。
- ・栄養教諭については、採用後2年、5年、概ね10年を経過した者を対象として、自己の課題や児童生徒の食に関する課題の現状を把握し、積極的に学校給食の管理や食に関する指導を展開できる実践力を身に付けるための研修を実施した。

【教職経験2年経過研修】

		小学校教諭	中学校教諭	義務教育教諭	県立学校教諭	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)		1		1	1	1	4
	日数(日)		1		1	1	1	4
②	対象者数(人)	109	52	2	81	15	5	264

※上記に加え、選択研修を2日間実施。

【教職経験5年経過研修】

		小学校教諭	中学校教諭	義務教育教諭	県立学校教諭	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)		2		2	4	4	12
	日数(日)		2		2	4	4	12
②	対象者数(人)	79	51	8	72	21	4	235

【中堅教諭等資質向上研修】

		小学校教諭	中学校教諭	義務教育教諭	県立学校教諭	養護教諭	栄養教諭	計
①	研修回数(回)		8		7	9	9	33
	日数(日)		8		7	9	9	33
②	対象者数(人)	50	38	2	53	11	4	158

※小・中・義務教育学校教諭 各市町村教育委員会で1日間実施

※上記に加え、選択研修を宮大附属小・宮大附属中・県立中教諭・養護教諭・栄養教諭は1日間、  
県立学校は2日間実施

[臨時的任用講師等基本研修]

	小学校	中学校	義務教育	県立学校	計
受講者数(人)	65	66	0	89	220

[新規再任用者研修]

	小学校	中学校	義務教育	県立学校	計	
①	研修回数(回)		1		1	
	// 日数(日)		1		1	
②	対象者数(人)	79	55	1	58	193

[トップステージ研修(指定年齢)]

	小学校	中学校	義務教育	県立学校	計	
①	研修回数(回)		1		1	
	// 日数(日)		1		1	
②	対象者数(人)	62	77	1	93	233

※ 対象者数の内訳：小学校は、国立小学校を含む。

中学校は、県立中学校・中等教育学校前期課程・国立中学校を含む。

県立学校は、高等学校・特別支援学校・中等教育学校後期課程を含む。

※ 研修回数及び日数：基幹研修の日数は、選択研修を含まない。

## イ 職能研修

学校の管理職及び教務主任、複式学級初担任や特別支援学級初担任など専門的な教育指導等を必要とする職能について、その職務遂行に応じた基本的な事項や教職員としての資質の向上を図るための研修を実施した。天候不良や新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部オンラインやオンデマンド等に研修方法を変更した。

領域	職 能 名	講 座 数	日 数 (日)	対象者数 (人)
管 理 職 等	新任校長	1	1	90
	新任教頭	1	2	106
	新任事務長	1	2	16
	新任事務主幹	1	2	2
	新任主幹教諭	1	1	57
	新任指導教諭	1	1	13
主 任 等	新任教務主任	1	1	81
	新任生徒指導主事	1	1	78
	新任進路指導主事	1	1	44
	新任保健主事	1	1	74
	新任特別支援教育コーディネーター	1	1	97
	新任事務主任	1	1	7
	新任共同実施主任	1	1	9
担 当 教 諭	複式学級初担任	1	1	44
	特別支援学級初担任	1	2	177
	通級指導教室初担当者	1	1	26
学校事務	学校事務職員新任者研修	1	2	52
合 計		17	22	973

## ウ リーダー養成研修

### [リーダー養成研修]

公立学校の教職員を対象に、本県教育のリーダーとしての資質の向上や本県教育水準の向上を図ることを目的として、学校運営を行っていく上での基礎的な知識を身に付けるための研修を実施した。

講 座 名	日 数	学 校 種 別 対 象 者 数				
		小	中	義務	県立	計
リーダー養成研修	15	13	11	0	15	39
学校管理実務研修	3	42	35	2	19	98
計	18	55	46	2	34	137

### ※ 対象者数の内訳

- ・小学校は、国立小学校を含む。
- ・中学校は、県立中学校・中等教育学校前期課程・国立中学校を含む。
- ・県立学校は、高等学校・特別支援学校・中等教育学校後期課程を含む。

### [研修生研修]

公立学校の教職員を対象に、教員の資質向上と教育実践の深化・充実を図る目的で、1年間の調査研究等、教育に関する専門的、技術的事項についての研修を実施した。

講 座 名	期 間	学 校 種 別 対 象 者 数				
		小	中	義務	県立	計
研修生研修	1年間	1	1	0	2	4

## ● 課題別研修担当

### ア 選択研修

教職員のライフステージに応じた資質・能力・マネジメント力等の育成及び喫緊の教育課題への対応力の向上と教育実践力の進化・充実を図った。

研 修 数	日 数	受 講 者 数
16	17	1,479

### ※ 実施研修

- ① 基礎・基本から学びたい方向け研修  
キャリア教育、特別支援教育、授業研究、生徒指導、保護者連携
- ② 課題を解決する力を高めたい方向け研修  
カリキュラム・マネジメント、キャリア教育、人権教育、特別支援教育と生徒指導、児童生徒の特性に応じた支援、OJTの推進、不登校未然防止
- ③ マネジメント力を高めたい方向け研修  
学校と地域との連携・協働、特別支援教育と組織マネジメント、ネット社会への対応、コーチングスキル

- ④ 管理職としてのマネジメント力を身に付けたい方向け研修  
 スクール・コンプライアンス、カリキュラム・マネジメント、人材育成

イ 職能選択研修

希望者向けに、各職能に関する専門的事項について研修を行い、職能としての資質の向上を図った。

講座数	日数	受講者数
9	9	945

ウ 教育課題研修

喫緊の教育課題の解決や本県の教育施策の充実を図るための研修を実施し、教職員のライフステージに応じた資質・能力・マネジメント力等の育成及び喫緊の教育課題への対応力の向上と教育実践力の進化・充実を図った。

研修数	日数	受講者数
6	9	1,555

エ 自主研修

教職員や保護者等、県民が自主的に参加する研修の場の充実を図るとともに、臨時的任用講師等の指導力の向上を図った。

研修数	日数	受講者数
2	13	843

※ 実施講座 ひなた教師塾、(いつもよりちょっと楽しい) ICT講座

オ 資質向上研修

教育実践上の基礎的・基本的な研修や人間関係づくりを目的とした研修等を実施し、教職員の資質の向上を図った。

講座名	期間	学校種別受講者数				
		小	中	義務	県立	計
資質向上研修等	1年間	3	1	0	0	4

(3) 教育支援課事業

● 教育支援担当

ア 学校教育への支援

① 学校教育に関する課題等についての質問や相談への対応

個人(教職員)及び学校や教育研究団体を対象として、来所、電話、メール、FAXによる質問や相談への対応を行った。

来所	電話	メール	FAX	総計
10	96	5	0	111

② 研修サポート

幼・小・中・県立学校、教育研究団体等の研究及び研修について、要請に応じて指導主事等の派遣による指導・援助を行った。(※小中一貫校は、中学校に含める。)

校種等	小学校	中学校	義務教育	県立学校	その他	計(昨年度)
指導主事等派遣(件)	25	13	1	18	3	60(48)

③ 教育資料、図書、DVD等の紹介・貸出

カリキュラム支援センター所蔵の教育資料、図書、DVD等の紹介、貸出しを行った。

図書	研究紀要等
所有数	所有数
6,357	1,114

貸出者数(昨年度)
322(385)

④ 自主研究グループへの支援

自主研究グループを募集し、6団体を指定。延べ1回の指導主事等による研究会の支援や研修場所の提供を行った。

グループ名	研究内容	グループ名	研究内容
09 YOKYO'S(小・中・高・特支)	養護教諭の資質向上	みやぎ養護教諭29研修会(小・中・特支)	養護教諭の資質向上
養護教諭15の会(小・中・高)	養護教諭の職務	みやぎ特別支援教育コミュニティ(特支)	特別支援教育
全国養護教諭連絡協議会宮崎県研究会(小・中・高)	養護教諭の資質向上	Seitoshidou2022	生徒指導力の向上

イ 広報活動

① 目的

教育研修センター事業の内容や成果について、教職員及び県民に広く周知する。

② 事業実績

- 「教育研修センター利用の案内」を県内教育関係機関、各小・中・県立学校等へ配付した。
- 「要覧」を県内教育関係機関、各小・中・県立学校等へ配付した。
- 教育研修センターのWebページに、学校支援のバナー内のコンテンツ（研修サポート、研修で利用できる資料、サイエンスアドバイザー、自主研究グループ、学校におけるキャリア教育）や県民の学びの扉のバナー（生涯学習・社会教育等研修講座、宮崎県キャリア教育支援センター）に関連ページやチラシ等を適宜掲載した。

ウ 生涯学習・社会教育支援

① 社会教育基礎講座  
講座数・日数・受講者数等

講座数	日数	受講者数
1	1	42

講座内容・日数・受講者数等

目的	講座内容	期日	受講者数
生涯学習・社会教育を推進するために必要な知識・技能等を学び、社会教育行政職員としての資質の向上を図るとともに、関係者間のネットワークを築く。	・講義 「生涯学習概論」 ・実践発表・質疑応答 「人口減少に歯止めをかけた上土幌町の社会教育行政と地域づくり」	5. 27 (金)	42

② 社会教育専門講座  
講座数・日数・受講者数等

講座数	日数	受講者数
1	1	79

講座内容・日数・受講者数等

目的	講座内容	期日	受講者数
家庭、地域、学校の連携・協働と生涯学習・社会教育の役割を学び、各市町村における本県ならではの家庭、地域、学校の連携・協働の推進について考える。	・講義 「これからの人づくり・地域づくり ～社会教育行政の役割～」	4. 14 (木)	79

エ 生涯学習・社会教育課題別研修

- ① 県民公開講座（マイ・トライ）  
子どもの健全な育成とともに県民総ぐるみでの教育推進に係る環境づくりを目指して、生涯学習・社会教育等関係者や学校教育関係者、一般県民の主体的な学びの文化を醸成するために、生涯学習・社会教育及び学校教育推進の視点を含む公開講座を実施した。

講座数・日数・受講者数等

研修数	日数	受講者数
7	7	1, 229

講座内容・日数・受講者数等

講座名	講師等	主な内容	時間	期日	受講者数
第1回 みやざきの人づくり・地域づくりシンポジウム	文部科学省CSマイスター（山口県教育庁義務教育課 主幹） 相田 康弘 日向市立財光寺小学校 主幹教諭 黒田 智秀 小林市社会教育課 KS SVCアドバイザー 甲斐 昭児 川南町地域学校協働活動推進員 平塚 金治	コミュニティー・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について、国の動向や県の目指す方向性についての理解を深め、これからのみやざきを担う人材育成や地域の活性化に資する。	13:20～ 16:00 対面型+ オンライン	5.30 (月)	200
第2回 みやざき家庭教育フォーラム	宮崎県教育研修センター 指導主事 永田 賢吾 指導主事 市原 洋平	家庭や地域での子どもたちとの関わり方を考えたり、共生社会の在り方を考えたりすることで、地域ぐるみで家庭教育を支	10:00～ 12:00 オンライン	7.2 (土)	81

		援していく機運づくりを図る。			
第3回 読書県みやぎきシンポジウム	小説家 行成 薫 オペラ歌手 川越 塔子 バリアフリーサークル みやぎき代表 真北 聖子	県民を対象に、読書の魅力について共に考える場を提供することで、読書のよさを再認識し、「大人も子どもも生涯にわたって読書に親しむ宮崎県民」の推進を図る。	13:00～ 16:30 対面型	8.6 (土)	400
第4回 今さら聞けないSDGs	宮崎県ユニセフ協会 広報部長 相田 久雄 赤十字国際委員会 進藤 弘騎	SDGsを理解していく中で、世界で起きている様々な問題に着目する機会とする。	9:30～ 11:30 オンライン	10.22 (土)	69
第5回 多様な子供たちへの学びの支援	国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター 総括研究員 井上 秀和	講演や支援機器体験をとおして、個に応じた学びの支援の在り方を考える機会とする。	10:00～ 12:00 対面型	11.19 (土)	21
第6回 第7回宮崎県生涯学習実践研究交流会	一般社団法人 ハチハチ森 佑介 Learners Meet 原田 英治 宮崎県立妻高等学校 HOSOSHIMAまちづくり協議会 三輪 俊二 近藤 勝久	実践事例の研究をとおして、自分を見つめ直し、議論し合い、周りの優れたところを吸収し合うことで、次代を担う子どもたちをどのように見守り育てていくのか、また自分自身が学び続けていくために何をすべきかを考える。	13:00～ 16:00 対面型+ オンライン	12.10 (土)	217
第7回 みやぎきの人づくり・地域づくりフォーラム	中部教育事務所 連携推進アドバイザー 築地原 静 南部教育事務所 連携推進アドバイザー 北村 俊二 北部教育事務所 連携推進アドバイザー 宮園 泰宣	県内の地域学校協働活動の優良実践の表彰や実践発表からの学びをとおして、社会教育及び学校教育における、これからのみやぎきを担う人材育成や地域の活性化に資する。	13:30～ 16:00 オンライン	2.1 (水)	241

オ 生涯学習・社会教育関係職員等と教職員がともに学ぶ研修

① 県民総ぐるみ教育推進研修会

「地域学校協働活動」の意義や推進体制についての理解深化や実践への動機付けを通して、学校・家庭・地域や企業・市民団体等が一体となって取り組む県民総ぐるみによる教育を推進し、未来を担う人材づくりや学校を核とした地域づくりに資するために、以下の研修会を実施した。

会場	研修内容	時間	期日	受講者数
宮崎地区 県教育研修センターからオンライン配信	・説明 「みやぎきの地域と学校の連携・協働の推進について」 ・説明 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について」 ・講演 「地域の宝（子ども）を地域で育てよう」 ・インタビュー	13:30～ 16:00 オンライン	7.14 (木)	137
南那珂地区 オンデマンド研修	・説明 「みやぎきの地域と学校の連携・協働の推進について」 ・説明 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について」 ・説明 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の事例紹介」 ・まとめ 「都農中学校の取組」（動画）	オンデマンド	9.21 (火) ～ 10.28 (金)	40



児湯地区 県教育研修センターからオンライン配信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明 「みやぎきの地域と学校の連携・協働の推進について」</li> <li>・説明 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について」</li> <li>・説明 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の事例紹介」</li> <li>・まとめ 「都農中学校の取組」(動画)</li> </ul>	9:30～ 11:00 13:30～ 15:00 オンライン	9.13 (火)	54
北諸県地区 都城市高崎福祉保健センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明 「みやぎきの地域と学校の連携・協働の推進について」</li> <li>・実践発表 「三股町立勝岡小学校における学校運営協議会の取組」</li> <li>「庄内地区地域学校協働本部による取組」</li> <li>・講話 「語り合いから始まる連携・協働」</li> <li>・ワークショップ 「子ども達の豊かな成長のために、私にできること・やってみたいこと」</li> </ul>	9:30～ 12:00	10.8 (土)	104
西諸県地区 えびの市飯野地区コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明 「みやぎきの地域と学校の連携・協働の推進について」</li> <li>・実践発表 「高原に積極的に関わり、高原に貢献する学校づくりを目指して」</li> <li>「参加したくなる・参加しやすい地域活動づくり」</li> <li>・講話 「語り合いから始まる連携・協働」</li> <li>・ワークショップ 「子ども達の豊かな成長のために、私にできること・やってみたいこと」</li> </ul>	9:30～ 12:00	10.15 (土)	104
北部教育事務所管内 延岡市社会教育センター カルチャープラザのべおか 県教育研修センターからオンライン配信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明 「みやぎきの地域と学校の連携・協働の推進について」</li> <li>・講演 ・ワークショップ 対面：「ワールドカフェ」による情報交換 オンライン：ブレイクアウトルームを使用し、他の学校との情報交換</li> </ul>	対面 13:30～ 16:20  オンライン 13:30～ 16:00	10.7 (金)	239

カ キャリア教育支援機能の推進

① キャリア教育推進に関する対応(令和5年3月31日現在)

学校の校内研修や市町村教育委員会が主催する研修など、以下のような支援を行った。

コーディネーター		課員		合計		
相談・支援等	講演等	相談・支援等	講演等	相談・支援等	講演等	件・人数合計
715件	172件	454件	45件	1,169件	217件	1,386件
3,829名	10,128名	579名	2,587名	4,408名	12,715名	17,123名

※相談・支援等…キャリア教育の推進についての講義、協議、相談

※講演等…各種研修会等における講演や、よのなか教室の講師等

② キャリア教育の推進拠点やエリアへの支援

- (1) 日向市での初開設以降、キャリア教育の推進拠点として新たに開設されたキャリア教育支援センターの取組を支援するとともに、新規開設に向けた啓発活動を行った。
- (2) 校内研修や自主研修等においてキャリア教育への理解を深められるように、キャリア教育に関わる動画コンテンツを作成し、Webページ上に掲載した。
- (3) 「LOCAL+」等の動画コンテンツを授業で活用できるように、授業展開例やワークシートを作成してWebページ上に掲載した。

- ③ キャリア教育研修の実施  
教職員を対象とした研修を実施した。
- (1) 「キャリア・パスポートの効果的な活用及び校種間の引き継ぎ」
  - (2) 「みやぎきのキャリア教育」
  - (3) 「これからの時代を生きる子供を育てる教育」
- ④ 中山間地エリア会議（キャリア教育推進セミナー）の実施  
中学生段階からキャリア形成支援を行う「ひなた場」（対話型キャリア教育プログラム）や対話を西米良村教育委員会と協働で西米良中学校で実施した。
- ⑤ 広報活動
- (1) 「宮崎県キャリア教育支援センター通信」を県内全ての公立小・中・県立学校等、市町村教育委員会及び県内の商工会議所へ配付するとともに、Webページ上に掲載した。
  - (2) 「宮崎県キャリア教育支援センター」内で、教育資料（教育雑誌、書物他）に関する情報発信を行った。
  - (3) キャリア教育支援センター及び実践事例に係るキャリア教育プログラムを各種研修会で紹介した。
  - (4) みやぎ学びサポートプラザ内の「人づくり・地域づくりコーナー」で教職員だけではなく、県民にも幅広くキャリア教育について考えていただけるような工夫を行った。
  - (5) 「宮崎県キャリア教育支援センターリーフレット」をリニューアルし、5名のコーディネーターの紹介や支援した先生方の感想等を掲載し配付した。
  - (6) 「宮崎県キャリア教育支援センター」のWebページをリニューアルし、キャリア教育関係動画や活動事例等を掲載した。

● 教育相談担当

ア 教育相談及び生徒指導・特別支援教育に関する相談

① 内容

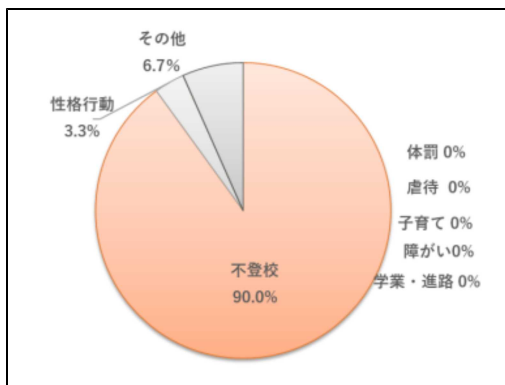
教育相談活動の充実を図り、あわせて幼児児童生徒の健全な成長発達を促進するため、来訪相談と電話相談を実施した。

- ・来訪相談 月～日曜日の午前10時から午後5時まで（ただし、祝日及び12/29～1/3は除く）。
- ・電話相談 月～日曜日の午前8時30分から午後9時まで（ただし、祝日及び12/29～1/3は除く）。

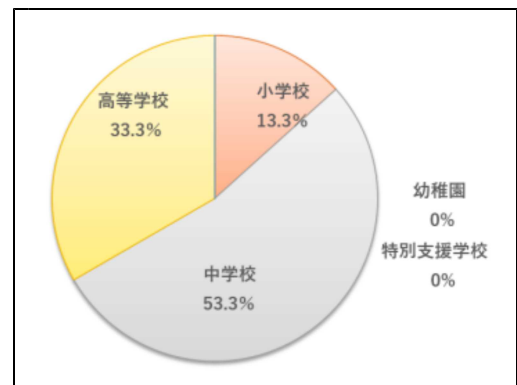
② 令和4年度相談件数（令和4年4月～令和5年3月） 計 715件

- ・来訪相談 30件（令和3年度 37件）

主訴別

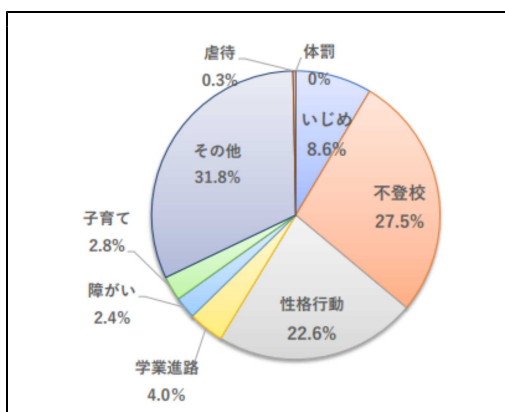


学校種別

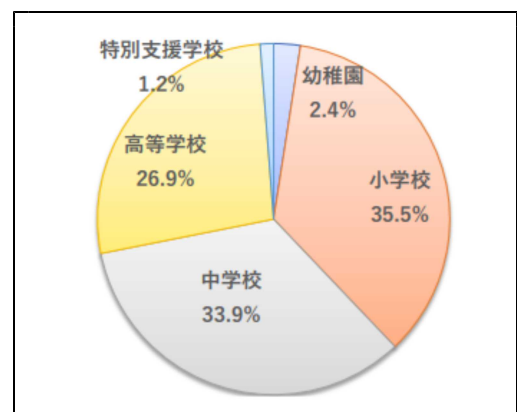


- ・電話相談 685件（令和3年度 978件）

主訴別（一般相談、無言を除く230件）



学校種別



## 第2節 県立図書館

### 1 設 置

県立図書館は、明治35年(1902年)に誕生し、現在の館は、置県100年記念事業の「宮崎県総合文化公園建設構想」に基づき最初に建築した施設として昭和63年5月23日、県総合文化公園内に開館された。

県立図書館は、社会教育を担う中核施設としての使命を踏まえ、基本目標として《「知の共有・創造」を支える全県的な図書館ネットワーク》の実現を目指すこととした宮崎県立図書館ビジョンを平成29年12月に策定した。また、策定後の図書館を取り巻く環境の変化に応じて一部内容を見直し、令和5年2月には当該ビジョンを次の枠組みに改めて、県民の学びを支え、宮崎の歴史・文化を伝える役割をより明確にした。

#### 宮崎県立図書館ビジョン

### 人の暮らしを豊かにし、地域の課題解決に役立つ図書館

#### 行動指針及び今後の施策展開の方向性

#### 指針1 図書館の図書館(全県ネットワーク)

- (1) 市町村立図書館(室)等の支援・協力
- (2) 学校図書館の支援
- (3) 大学図書館への利用促進
- (4) 図書館活動・ネットワークを支える施設・システムの維持管理
- (5) 図書館の図書館としての情報発信

#### 指針2 みやざきの資料(地域資料)の拠点

- (1) 地域資料の収集・保存・発信の全県的な促進
- (2) 地域情報のデジタル化・データベース化

#### 指針3 調べたい、学びたいに資料・情報・知識で応える

- (1) レファレンスサービスの充実
- (2) 専門的な資料・情報の収集・整理・保存・提供
- (3) 生涯読書活動の推進
- (4) 他の専門機関との連携
- (5) 情報アクセス環境の整備
- (6) 政策立案の支援
- (7) 地域の実情に応じた課題解決型サービス
- (8) 専門的なサービスを支える人材の育成・確保
- (9) 新たな動向の把握及び事業の改善

- 【重点取組事項】
- |     |                           |
|-----|---------------------------|
| 事項1 | 障がい者サービスの充実               |
| 事項2 | 電子図書館サービスの調査・研究           |
| 事項3 | 専門的資料及び地域資料の収集・整理         |
| 事項4 | 市町村図書館(室)・学校図書館に対する支援     |
| 事項5 | 県内公共図書館(室)職員の専門的知識・スキルの向上 |

### 沿 革

明治35年5月	私立日州教育会附属図書館の寄贈を受けて開館
大正4年11月	御大典記念事業として新館建設
昭和24年5月	増改築
昭和34年4月	近隣の町村会館から出火、類焼により焼失
昭和36年7月	新館開館
昭和63年5月	置県100年記念事業として総合文化公園に移転新築開館
平成22年10月	新書庫へ視聴覚演習室改修(収蔵能力4万冊増)

### 施設の概要

設置場所	宮崎市船塚3丁目210番地1(県総合文化公園内)		
建築面積	6,067㎡	延床面積	9,729㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造2階建	収蔵能力	84万冊

閲覧室系設置席数	一般閲覧室	229席	研修室系収容席数	研修ホール	156席
	郷土資料室	36席		視聴覚室	150席
	児童図書室	22席		研修室	52席
	A Vコーナー	6席		読書振興室	20席
	パソコン席	23席			
	新聞コーナー席	12席			

### 2 資料概況

県立図書館の蔵書数は、令和4年度末で約83.7万冊となっている。

県民に対する社会教育の推進、及び県民の生涯にわたる学習活動を支援するために、各分野における基本的な資料から専門的な資料まで幅広く収集し、特に、市町村図書館等との役割を踏まえた収集、学校教育援助のための収集、郷土資料の収集、子どもの読書活動推進のための収集、自然や環境及び本県の産業に関する特色ある図書館づくりのための収集、地域や社会人支援のための収集に重点的に取り組んでいる。

## 資料購入の推移

(金額：千円)

区分	H30		R1		R2		R3		R4	
	購入数	金額	購入数	金額	購入数	金額	購入数	金額	購入数	金額
図書	11,144	35,860	10,727	36,976	9,501	33,834	9,465	34,779	10,318	35,091
逐次刊行物	3,487	5,422	3,476	5,544	3,460	5,629	3,544	5,792	3,553	5,881
視聴覚資料	37	770	44	735	37	888	22	734	25	779
計	14,668	42,052	14,247	43,255	12,998	40,351	13,031	41,305	13,896	41,751

## 配架別・分類別資料数

(令和5年3月31日現在)

区分	閲覧室	児童図書室	書庫	B M書庫	視聴覚資料	その他	合計	割合(%)
0 総記	8,276	950	41,174	953	384	465	52,202	6.2
1 哲学	4,904	271	20,079	1,044	112	3	26,413	3.2
2 歴史	13,867	1,597	56,772	2,895	930	329	76,390	9.1
3 社会科学	24,622	2,606	150,884	5,605	2,417	429	186,563	22.3
4 自然科学	13,816	3,920	44,585	6,209	1,134	21	69,685	8.3
5 技術	12,372	1,604	42,068	5,321	772	23	62,160	7.4
6 産業	11,162	895	38,625	2,183	554	8	53,427	6.4
7 芸術	10,578	2,808	44,844	5,245	7,698	69	71,242	8.5
8 言語	3,076	605	9,913	1,220	146	44	15,004	1.8
9 文学	26,620	18,833	138,985	39,306	369	63	224,176	26.8
計	129,293	34,089	587,929	69,981	14,516	1,454	837,262	100.0

## 3 事業実績

## (1) 館内利用事業

県立図書館では、図書資料等の閲覧・貸出、レファレンス（調査相談）業務等を行っている。特にビジネスに関するさまざまな情報を提供するビジネス支援サービス、郷土資料や行政資料等の収集や積極的な活用、関係機関と連携した県政の重点施策情報発信事業等、県民への情報発信に努めている。

また、身近な健康や病気に関する資料を揃えた健康情報コーナーの設置、健康相談「まちの保健室」の開催、妊娠、出産、育児など子育てに関する資料を見守る図書室内に揃えた子育て支援コーナーの設置など、身近な課題解決に役立つ情報提供にも努めている。

## ① 貸出冊数等

## 入館者数・登録者数・貸出冊数（開館日数：298日）

(令和4年度)

区分	入館者	登録者	貸出冊数	1日平均入館者	1日平均登録者	1日平均貸出冊数
利用者	人	680人	47,663冊	人	2.3人	159冊
0歳～6歳		555	41,804		1.9	140
7歳～12歳		157	3,094		0.5	10
13歳～15歳		149	2,197		0.5	7
16歳～18歳		329	4,830		1.1	16
19歳～22歳		445	11,444		1.5	38
23歳～29歳		981	45,971		3.3	154
30歳～39歳		956	56,490		3.2	190
40歳～49歳		589	32,493		2.0	109
50歳～59歳		489	39,605		1.6	133
60歳～69歳		538	47,888		1.8	161
70歳～						
計	187,141	5,868	333,479	-	19.7	1,117

※入館者カウンター集計機の不具合のため、令和4年度（9月から1月）の入館者数はカウントされていない。

## 分類別図書貸出冊数

(令和4年度)

分類別	閲覧室	児童図書室	計	1日平均	分類別	閲覧室	児童図書室	計	1日平均
0 総記	6,692	1,733	8,425	28	6 産業	10,608	3,100	13,708	46
1 哲学	6,971	1,073	8,044	27	7 芸術	16,988	10,241	27,229	91
2 歴史	13,677	4,161	17,838	60	8 言語	3,886	1,844	5,730	19
3 社会科学	25,920	5,726	31,646	106	9 文学	54,460	108,101	162,561	546
4 自然科学	18,028	13,945	31,973	107					
5 技術	20,076	6,249	26,325	88	合計	177,306	156,173	333,479	1,119

## レファレンス業務

(令和4年度)

区分	対面	電話	文書等	FAX	Eメール	計(件数)
件数	4,548	1,679	22	1,120	378	7,747

## 相互貸借件数

(令和4年度)

区分	国立国会図書館借受	県内外図書館借受	県外図書館貸出	計(冊)
件数	0	480	204	684

② ビジネス支援

県立図書館の持つ様々な蓄積されたデータ情報や資料等をもとに、ビジネス関連情報のコーディネートを行っている。関係機関とのビジネス情報の共有化を図る中で、県民が必要としている情報の提供（関係機関の紹介等含む。）を行っている。

○ ビジネス情報コーナー

- ・ビジネス関連資料 … 会社録、業界情報、業界名鑑、統計、白書、雑誌等
- ・「仕事」本 … 資格取得、キャリアアップのための書籍等
- ・パンフレット … 各種政策、求人情報、セミナー等のパンフレット
- ・パソコン席 … 個人持ち込み用パソコン席15席  
インターネット専用利用者パソコン4台、データベース専用パソコン4台

○ 関係機関との共催による企画展、セミナー等

- 令和4年度実績
- ・「みやざきテクノフェア」出展 令和4年11月18日～11月19日
- ・「高校生ビジネスプラン作成講座」開催 令和4年8月21日

③ 児童サービス

○ 読み聞かせ

子どもの想像力を育て、多くの言葉と出会う機会を持たせるために、毎週3回職員とボランティアによる絵本の読み聞かせを行っている。

- ・毎週火曜日：午後2時～午後2時20分（図書館職員による読み聞かせ）
- ・毎週水曜日：午後3時～午後3時20分（ボランティア団体による読み聞かせ）
- ・毎週土曜日：午後3時～午後4時（〃〃）

〈令和4年度実績〉

読み聞かせ利用者数 こども：471人 大人：521人 合計：992人

○ 子育て支援

児童図書室内に、妊娠、出産、育児、しつけなど子育てに関する図書や雑誌等をまとめた「子育て支援コーナー」を設置している。

④ 健康情報サービス

○ 宮崎大学医学部がん相談支援センターとの連携

- ・がん対策に関するパネル展示のほか、関連するパンフレット、チラシを配架

○ 健康相談「まちの保健室」の開催

第5週を除く毎週土曜日に、1階ギャラリーで宮崎県看護協会より派遣される保健師等による相談会を実施している。

〈令和4年度実績〉 相談者数 延べ：222人

○ 「がんサロン」の実績

〈令和4年度実績〉 1回実施（2月17日） 参加者数：26人

○ 『声に出して言葉を楽しもう』会の開催

〈令和4年度実績〉 2回実施（9月29日、11月25日） 参加者数 延べ：26人

⑤ 障がい者等サービス

来館が困難な程度の障がい者を有する方々への無料郵送貸出、視覚障がい者等のための音声録音図書の貸出を平成27年3月から実施している。

〈令和4年度実績〉 利用登録者数 新規：3人 年度末計：44人 延べ利用数 1,170点

○ 『読む』サポートコーナーの設置

本を読むことに困られている方が、読書を楽しむことができる資料を配架している。

LLブック、点字資料、マルチメディアDAISY等

○ 視覚障害者等用データ送信サービスの開始

閲覧室に設置してある端末で、国立国会図書館が製作した視覚障害者等用資料（学術文献のテキストデータ及び録音データ等）のDAISYデータ等と、図書館等が製作し国立国会図書館が収集した視覚障害者等用データ（DAISYデータ）を利用できるようになった。

⑥ 郷土情報の発信

○ 郷土資料室の充実

今後の施策展開として「みやざきの文化の理解・継承の促進」を掲げ、宮崎の歴史や自然、文学、先人に関する資料の充実を図っている。また、県・市町村・国からの刊行物はもちろん、全市町村の広報誌など行政資料の収集にも取り組み、関係機関と連携して積極的に郷土情報の発信に取り組んでいる。

○ 特別展・企画展

- ・特別展：「若山牧水～牧水と旅～」（令和4年9月17日～10月16日）
- ・同上：「中近世の日向国」（令和4年11月1日～12月4日）
- ・企画展：「宮崎の漁業－歴史と特色を中心に－」（令和5年1月14日～3月12日）
- ・共催展：「遺跡発掘成果展2022『再発見！1990年代調査の遺跡～県南・県西編～』」（令和4年8月19日～9月4日）

- 巡回展
  - ・「生命を守る」  
会場：宮崎大学附属図書館（5月6日～5月30日）、日向市立図書館（6月7日～7月3日）、宮崎日本大学中学校・高校（7月6日～8月1日）、えびの市歴史民俗資料館（9月6日～9月25日）、日南市まなびピア（10月3日～10月21日）、宮崎市立佐土原図書館（2月15日～3月13日）
  - ・「宮崎のダム」  
会場：三股町立図書館（7月12日～8月21日）都農町民図書館（9月28日～10月31日）門川町立図書館（11月3日～12月1日）諸塚村中央公民館図書室（1月17日～2月17日）
- 講座
  - ・宮崎県文化講座 3回実施（7月16日、8月20日、9月10日） 受講者計35人
  - ・古文書講座  
講座①近世文書に親しむ「巡見使」 2回実施（6月4日、7月2日） 受講者計41人  
講座②近世文書に親しむ「佐土原嶋津家日記の中より」 2回実施（10月1日、11月5日） 受講者計40人
- 刊行資料
  - ・『宮崎県文化講座研究紀要 第49輯』
  - ・『佐土原藩嶋津家江戸日記（二十四）』

- ⑦ 職場体験学習・施設見学等  
小学生等の館内見学や中学生からの職場体験学習を積極的に受入れ、図書館の利用促進や学生の就業体験、図書館司書の実習等を行っている。

図書館体験学習（施設見学を含む。）

（令和4年度）

種別	幼稚園・保育所	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他	計
受入団体数	1	5	0	1	0	3	5	15
人数（延数）	31	259	0	1	0	22	39	352

- ⑧ 関係機関と連動した情報発信事業
- ア) 県立図書館ギャラリー展（県政の重点施策情報発信事業）  
県政の重点施策や地域の課題等を県民に周知し理解を促すことを目的として、県・国等の関係機関と社会教育施設である県立図書館が互いの資産（人・物・施設等）を有効活用し、企画展や関連イベント等の情報発信事業を図書館の施設を使用して実施している。  
○令和4年度実施事業数…31事業  
〈実施事業例〉  
「サイバー犯罪被害防止パネル展」、「消費生活問題啓発パネル展」、「男女共同参画パネル展」等
- イ) 県立図書館ギャラリー展（主催・共催事業）  
県政の重点施策情報発信事業以外に、当館が定めたテーマによる主催行事や関係機関との共催事業を実施し、積極的に情報発信を行っている。  
○令和4年度実施事業数…5事業  
〈実施事業例〉  
「秋の読書週間企画展」、「NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」全国巡回展」等
- ウ) 県内公共図書館・図書室における巡回展  
県政の重点施策情報発信事業においては、広く県内各地に周知を図るべきものであることから、県内公共図書館・図書室での巡回展を実施した。  
○巡回展実施館数…21館（室）  
○巡回展実施事業数…58事業
- ⑨ 各種相談事業  
地域や住民の課題やニーズの多様化に対応するためには、情報提供だけでなく「人」と「組織」を結びつける積極的なレフェラルサービスも必要であり、各種機関と連携した相談会を実施している。
- ア) 法律相談会  
・実施日…毎月第2金曜日（8月を除く） ・相談件数…11件
- イ) ランタンのつどい（自死遺族の思いの分かち合いの会）  
・実施日…毎月第2土曜日 ・参加者数…64人

(2) 館外利用事業

- ① 移動図書館車「やまびこ」による巡回配本に代わり、平成28年度からやまびこ文庫事業を開始した。やまびこ文庫は、町村や学校等における読書環境の整備を支援する事業で、県立図書館から貸出図書を定期配送する支援及びBM書庫（市町村配送専用書庫）で貸出を行う支援を実施している。

ア) 定期配送による支援  
<町村支援事業>

令和4年度貸出冊数

市町村名	図書館・図書室名	貸出冊数	市町村名	図書館・図書室名	貸出冊数
高千穂町	高千穂町立図書館	1,500	美郷町	美郷町立西郷図書館	1,500
五ヶ瀬町	五ヶ瀬町教育委員会図書室	1,500		美郷町立北郷図書館	1,500
諸塚村	諸塚村中央公民館図書室	1,500		美郷町立南郷図書館	1,400
日之影町	日之影町立図書館	900	高原町	高原町中央公民館図書室	1,500
西米良村	西米良村立図書室	300	木城町	木城町総合交流センターリパリス図書室	90
			合計		11,690

<学校支援事業>

令和4年度配本冊数

市町村名	学校名	冊数	市町村名	学校名	冊数	市町村名	学校名	冊数
五ヶ瀬町	鞍岡小学校	1,330	美郷町	美郷北義務教育学校	900	宮崎市	明星視覚支援学校	300
	三ヶ所小学校	1,500		美郷南学園	840		赤江まつばら支援学校	360
	坂本小学校	1,500		椎葉小学校	630		みなみのかぜ支援学校	600
	上組小学校	1,200		尾向小学校	900		清武せいりゅう支援学校	1,200
	五ヶ瀬中等教育学校	1,200	椎葉村	不土野小学校	1,500	宮崎海洋高等学校	400	
高千穂町	押方小学校	360		大河内小学校	840	都城市	都城さくら聴覚支援学校	630
	田原小学校	900		松尾小学校	1,200	日南市	日南くろしお支援学校	1,500
	岩戸小学校	1,500		椎葉中学校	450	日向市	日向ひまわり支援学校	900
	上野小中学校	1,500	諸塚小学校	1,170	小林市	小林こすもす支援学校	600	
	延岡しろやま支援学校高千穂校	450	西米良村	西米良中学校	600	新富町	児湯るびなす支援学校	900
日之影町	日之影中学校	750			合計		28,610	

イ) 市町村・団体支援用専用資料の貸出による支援  
<大量貸出支援事業>

令和4年度貸出冊数

市町村名	図書館・図書室名	貸出冊数	市町村名	図書館・図書室名	貸出冊数
延岡市	延岡市立図書館	2	都農町	都農町民図書館	1,706
美郷町	美郷町立西郷図書館	625	宮崎市	高岡農村環境改善センター図書室	520
	美郷町立北郷図書館	638	合計		2,387

<児童教育施設等支援事業>

令和4年度貸出冊数

登録施設数	冊数	貸出冊数
23		4,432

- ② 子育て支援図書セット貸出  
絵本・育児書で構成した子育て支援セット（1セット30冊）を町村の図書館・図書室へ貸し出すこと  
によって、県立図書館に来館できない子育て世代への支援を行っている。
- ③ 団体文庫  
読書を通じて活動する団体の読書活動を促進し、読書団体の健全な育成を図るため、図書資料の長期大量  
貸し出しを実施している。
- ④ 県立図書館資料の市町村への貸出  
県内全域での県立図書館の利用を図るため、利用者の居住する市町村立図書館・室等から県立図書館の  
図書を貸し出すマイラインサービスを実施している。

令和4年度貸出冊数

図書館・室名	貸出冊数	図書館・室名	貸出冊数	図書館・室名	貸出冊数
宮崎市立佐土原図書館	44	美郷町立西郷図書館	240	県立宮崎商業高等学校	131
都城市立図書館	266	美郷町立北郷図書館	223	県立日南振徳高等学校	25
都城市立高城図書館	5	美郷町立南郷図書館	56	県立都城農業高等学校	0
延岡市立図書館	263	高千穂町立図書館	122	県立宮崎北高等学校	43
延岡市立図書館北方分館	5	宮崎市立田野公民館図書室	0	県立高鍋高等学校	4
延岡市立図書館北浦分館	12	宮崎市高岡地区農村環境改善センター図書室	47	県立宮崎東高等学校	0
延岡市立図書館北川分館	13	都城市山之口地区公民館図書室	3	県立妻高等学校	34
日南市立図書館	446	都城市山田総合センター図書室	68	県立日向工業高等学校	7
小林市立図書館	157	都城市高崎たちばな学び館	13	県立宮崎西高等学校	127
日向市立図書館	310	高原町中央公民館図書室	98	県立福島高等学校	37
串間市立図書館	155	西米良村立図書室	12	県立都城泉ヶ丘高等学校	138
西都市立図書館	84	木城町総合交流センターリパリス図書室	87	県立延岡星雲高等学校	5
えびの市民図書館	55	諸塚村中央公民館図書室	3	県立高千穂高等学校	4
三股町立図書館	130	椎葉村図書館	26	県立飯野高等学校	5

国富町立図書館	275	日之影町立図書館	183	県立小林高等学校	42
綾てるは図書館	165	五ヶ瀬町教育委員会図書室	108	県立延岡商業高等学校	30
町立高鍋図書館	133	県立五ヶ瀬中等教育学校	81	県立宮崎工業高等学校	7
新富町図書館	238	県立日向高等学校	72	県立高鍋農業高等学校	2
川南町立図書館	38	県立富島高等学校	3	宮崎大学附属図書館本館	15
都農町民図書館	286	県立宮崎南高等学校	0	宮崎大学附属図書館医学分館	0
門川町立図書館	14	県立佐土原高等学校	0	県立看護大学	1
				合計	5,196

※日南市立まなびピア図書館及び北郷図書館、南郷図書館は本館（日南市立図書館）に含まれる

※小林市立図書館野尻分館・須木分館は本館（小林市立図書館）に含まれる

(3) 視聴覚事業

視聴覚資料等の登録団体への貸出及び視聴覚資料等を利用した映写会、講座等を実施している。

① 令和4年度視聴覚資料等利用状況

視 聴 覚 資 料		機 器	
利 用 回 数	利 用 者 数	利 用 回 数	利 用 者 数
30	1,815	14	568

② 令和4年度事業実績

○ 映写会

県民の生涯学習や子どもたちの情操教育に役立てるため、子ども向け及び一般向けの映写会を実施している。

図書館子ども映写会	1回	参加人数	31人
図書館シアター	4回	参加人数	116人
メモリアル宮崎	2回	参加人数	13人

○ 緑陰コンサート

音楽に関する専門的な知識や技術を持つ団体等を招き、演奏会や音楽レコードの鑑賞会を実施している。  
2回 参加人数229人

(4) 文化活動事業

県立図書館創立120周年を記念し、秋の読書週間にあわせて、宮崎市出身の文芸評論家尾崎真理子氏の講演会を開催した。また、旧館の映像を含む16ミリフィルム上映会（メモリアル宮崎～郷土を知ろう～）や、県立図書館を主なテーマとした企画展示などを実施し、県立図書館の歩みを振り返るとともに、さらなる学びの機会の提供に取り組んだ。

○ 第76回「秋の読書週間」関連行事

尾崎真理子氏講演会「日本の『村』と文学―大江健三郎、柳田国男、島崎藤村を繋いで考える」  
（実施日：令和4年10月29日）

(5) ホームページ等活用事業

ホームページを通じて、県内図書館(室)所蔵資料の横断検索サービスの提供や、貴重資料のデジタル画像の公開とともに、様々なイベント、サービスについて積極的に発信している。平成28年度からはフェイスブック、令和4年度からはInstagramによる情報発信を開始し、SNSの活用にも努めている。  
（令和4年度年間アクセス件数 フェイスブック29,406件、Instagram1,326件）

パソコン用トップページアクセス件数の推移

年度	H30	R1	R2(※1)	R3	R4(※2)
件数	1,087,461	320,790	243,672	273,502	196,485

※1 令和2年度については、システム入替えのため、令和3年2月中旬から下旬までの件数はカウントされていない。

※2 令和4年度については、アクセスカウンター不具合のため、令和4年12月から1月までカウントされていない。

(6) 県民の読書振興、生涯学習に資する各種事業実績

○ ラーニング・コモンズ事業「塩月桃甫と中村地平」

ともに本県出身で活躍した時代も共通する、画家の塩月桃甫と小説家の中村地平（県立図書館第23代館長）との関わりについて、高校生が図書館で文献等を調査し、その結果をもとに紹介原稿を作成するイベントを実施した。（参加者数 6人）

イベント終了後、紹介文をホームページで公開したほか、関連事業としてドキュメンタリー映画「塩月桃甫」の上映会（7月3日）を実施し、9月からは塩月桃甫が考案した県立図書館のマークをデザイン化した新しい図柄の貸出利用券の発行を開始した。



## 第3節 県立美術館

### 1 設 置

置県100年記念事業「宮崎県総合文化公園建設構想」に基づき、県民広場、図書館、芸術劇場に続く県民文化の拠点施設として、平成4年12月着工、平成6年12月に本体が完成。県立美術館条例の施行にともない平成7年4月1日「宮崎県立美術館」として設置され、同年10月17日に開館した。

#### (1) 施 設

地下1階 地上3階			
・高 　　さ	23m	・地 下	2,273.99㎡
・南北の長さ	90m	・1 階	3,403.98㎡
・東西の長さ	30m	・2 階	2,526.51㎡
・建築面積	3,428.48㎡	・3 階	2,050.06㎡
・延床面積	10,333.23㎡	・塔 屋	78.69㎡

#### (2) 事業部門

・展示部門	コレクション展示室 企画展示室 県民ギャラリー 等	2,926㎡
・収蔵部門	収蔵庫 一時保管庫 荷解梱包室 等	1,527㎡
・教育普及部門	美術図書室 アートシアター アトリエ 等	782㎡
・調査研究部門	研究室 会議室 資料室	186㎡
・サービス部門	喫茶室 ミュージアムショップ 等	699㎡
・管理部門	館長室 事務室 警備室 中央監視室 等	1,703㎡

### 2 事業実績

#### (1) コレクション展

美術館の収蔵作品を、コレクション展示室において、より広く県民に親しまれるとともに学習・憩いの場ともなるようテーマを設けて紹介する。令和4年度は次の展示を行った。

##### ① コレクション展示室1

内 容 館蔵品の中から企画テーマを設けて国内外の名品を紹介した。

会期及びテーマ

- ・第1期：4月16日(土)～7月18日(月・祝) 「身体と動き」
- ・第2期：7月24日(日)～10月30日(日) 「たのしむ美術館」
- ・第3期：1月17日(火)～4月4日(火) 「名品セレクション -シュルレアリスムの版画」

##### ② コレクション展示室2

内 容 館蔵品の中から企画テーマを設けて作品を紹介するとともに、本県出身の作家や本県にゆかりのある作家の作品を紹介した。

会期及びテーマ

- ・第1期：4月16日(土)～7月18日(月・祝) 「宮崎の美術 -ふるさとを描く」  
「家族の情景」
- ・第2期：7月24日(日)～10月30日(日) 「たのしむ美術館」
- ・第3期：1月17日(火)～4月4日(火) 「宮崎の美術 -春のはなやぎ」  
「詩と彫刻」

##### ③ コレクション展示室3(瑛九展示室)

内 容 瑛九の油彩画、版画、フォト・デッサン、関連資料などにより瑛九の人と芸術を紹介した。

会期及びテーマ

- ・第1期：4月16日(土)～7月18日(月・祝) 「瑛九の線と面」
- ・第2期：7月24日(日)～10月30日(日) 「たのしむ美術館」
- ・第3期：1月17日(火)～4月4日(火) 「瑛九の白と灰と黒」

##### ④ コレクション展示室4(彫刻展示室)

内 容 館蔵品の中から企画テーマを設けて主に彫刻作品を紹介した。

会期及びテーマ

- ・第1期：4月16日(土)～7月18日(月・祝) 「フィノッティ -融合された形-

- ・第2期：7月24日(日)～10月30日(日) 「たのしむ美術館」
- ※第3期は「みやざき総合美術展」会場として使用。

⑤ たのしむ美術館

内 容 当館のコレクション展の一環として、子どもから大人までを対象に様々な見方を紹介する入門的な展覧会。

技法、題材等に焦点を当てて分かりやすい解説や問いかけを設定するなど作品をより魅力的に感じてもらう工夫を通して、誰でも美術に親しむことができ、作品鑑賞の楽しさを味わい、美術や美術館に対する興味関心を高める機会とした。

会 期 7月24日(日)～10月30日(日) (計84日間)

入場者数 14,785名

関連事業

○スタンプラリー

各展示室にスタンプを準備し、全スタンプを押した鑑賞者に「たのしむ美術館オリジナルシール」をプレゼントした。

・日 時 会期中随時

(2) 特別展等

コレクション展と併せて国内外の優れた作品を紹介するため、令和4年度は次の展覧会を実施した。

① 尼崎市コレクション 白髪一雄 ー行為にこそ総てをかけてー

内 容 足で描くアクション・ペインティングを展開し、国内外で高い評価を受けた画家、白髪一雄の画業を、出身地である尼崎市コレクションの初期の具象からアクション・ペインティングまで70点の作品や資料により紹介。

会 期 令和4年5月28日(土)～7月3日(日) (計32日間)

入場者数 1,681名

関連行事

○開会式

日 時：令和4年5月27日(金) 午後2時から午後2時20分まで

会 場：2階アートフォーラム

○講演会「白髪一雄ーその人と作品」

日 時：令和4年6月12日(日) 午後2時から午後3時30分まで

会 場：1階アートホール

○レクチャートーク「白髪一雄の宮崎での足跡」

日 時：令和4年6月18日(土) 午後2時から午後3時まで

会 場：1階アートホール

○当館学芸員によるギャラリートーク

日 時：令和4年5月28日(土)、6月4日(土)、25日(土)

いずれも午後2時から午後3時まで

会 場：2階企画展示室

② ホキ美術館名品展 ー写実 永遠の存在感ー

内 容 日本初の写実絵画専門美術館として広く知られるホキ美術館が所蔵する現代作家約60名の作品500点以上の中から、森本草介や野田弘志らの選りすぐりの作品65を紹介。

会 期 令和4年7月16日(土)～9月7日(水) (計45日間)

入場者数 42,062名

関連行事

○開会式

日 時：令和4年7月16日(土) 午前9時30分から午前9時50分まで

会 場：2階アートフォーラム

○特別ギャラリートーク

日 時：令和4年7月16日(土) 午前10時30分から(45分程度)

会 場：2階企画展示室

○出品作家 島村信之アートトーク

日 時：令和4年7月30日(土) ①午前11時から12時まで

②午後2時から午後3時まで

会 場：1階アートホール

○出品作家 石黒賢一郎アートトーク

日 時：令和4年8月7日（日） ①午前11時から12時まで

②午後2時から午後3時まで

会 場：1階アートホール

○当館学芸員によるギャラリートーク

日 時：令和4年8月3日(水)、20日（土）、25日(木)、9月4日（日）

いずれも午後2時から午後2時30分まで

※感染症拡大のため一部スライドトークに変更

会 場：2階企画展示室（スライドトークは、アートシアターで実施）

③ 宮崎県立美術館コレクション企画展 めぐりあう個性

内 容 県立美術館のコレクションを形成する、瑛九を起点とした作家たちの相関図を描く展覧会として、マティスやピカソ、海老原喜之助など国内外作家による60点の作品に加え、関連資料も展示した。

会 期 令和4年10月1日（土）～令和4年10月30日（日）（計26日間）

入場者数 2,727名

関連行事 ○入場者全員に記念シールを配布

○当館学芸員によるギャラリートーク（3回実施）

日 時：令和4年10月1日（土）、16日（日）、29日（土）

いずれも午後2時から午後3時まで

会 場：2階 企画展示室1

④ 第3回みやざき総合美術展

内 容 県内在住者及び県出身者を対象に、自由表現、絵画、彫刻、書、写真、工芸、デザインの7部門の作品を公募し、入選、入賞作品を展示紹介した。

会 期 令和5年2月11日（土・祝）～2月26日（日）（計16日間）

展示点数 483点

会 場 企画展示室、県民ギャラリー、アートフォーラム

応募点数 1,141点

入場者数 6,334名

関連事業 開会式(令和5年2月10日)、表彰式（2月12日）

自由表現部門「作品を語る会」（令和5年2月18日）

デザイン部門審査員 廣村正彰氏「記念講演会」（令和5年2月19日）

写真部門「ワンポイント・レッスン」（令和5年2月23日）

(3) 教育普及部門

① 実技講座

県民の美術に関する技術の向上や創作意欲を喚起するため、県内外で活躍している講師を招き、2講座を実施した。

講座名	内 容	講 師	日 時	会 場	募集人数
染 色	型染めの技法を使った額絵を制作する。 (全4回実施)	前田 亮二 大分県立芸術文化短期大学 講師	令和4年 7月30日(土)、7月31日(日) 8月 6日(土)、8月 7日(日) 土曜日 13:30～17:30 日曜日 10:30～15:30	アトリエE3	5名
磁 器	有田焼の伝統的な技法、糸切り細工と絵付けを体験する。 (全4回実施)	甲斐 広文 佐賀大学芸術地域デザイン 学部准教授	令和4年 8月27日(土)、8月28日(日) 9月10日(土)、9月11日(日) 土曜日 10:30～16:30 日曜日 10:30～13:30	アトリエE1	6名

② 子ども美術教室

子どもたちを美術に親しませ、興味・関心や美術作品に対する理解を深めさせるため、鑑賞や創作等の機会を提供した。

教室名	内 容	期 日	会 場	参加人数
こいのぼりdeアート	封筒を使ってオリジナルこいのぼりを	令和4年5月4日(水・祝)	エントランス	44名

	作る工作キットを配付した。	5月5日(木・祝)	ホール	
名画たんてい団1	たんてい手帳(ワークブック)を使ってコレクション展を楽しく鑑賞した。	令和4年5月31日(火) ~6月19日(日)	コレクション 展示室	182名
夏を かざろう	身近な材料を使って、飾って楽しめる風鈴を作る工作キットを配付した。	令和4年7月16日(土)	エントランス ホール	17名
えのぐで あそぼう	絵の具を使った簡単な技法を体験し、楽しい作品を作った。	令和4年8月20日(土) 8月21日(日)	アトリエ3	39名
ヒカリで えがこう	光で描く日光写真を体験し、ちょっと変わった自画像を作った。	令和4年9月17日(土)	アトリエ3	15名
こども美術館DAY!	気軽に遊べるおもちゃや飾って楽しめる物などを作った。	令和4年10月22日(土) 10月23日(日)	アトリエ3ほか	209名
名画たんてい団2	たんてい手帳(ワークブック)を使ってコレクション展を楽しく鑑賞した。	令和5年2月21日(火) ~3月12日(日)	コレクション 展示室	137名

### ③ ワークショップ

従来の表現方式や技法にとらわれない表現活動をとおして、美術への興味関心を高め、表現することについて考える場として、ワークショップを実施した。

名 称	会 場	期 日	内 容	募集人数
ハコでアート! (募集型)	アトリエ3ほか	令和4年6月11日(土)	身の周りのいらなくなった物を箱に詰めて作品に生まれ変わらせ、美術館に展示した。	7名

### ④ 旅する美術館・旅してアート

県内各地で当館所蔵作品による展覧会を開催するとともに、複合的にアウトリーチ活動を展開することで、より多くの県民が気軽に本物の美術作品に触れる場や、創作体験及び美術の専門的な話を聞く機会など、様々なアートとの出会いの場を設定することで、県民が美術に親しみ、地域の文化振興に寄与することを目的として実施した。

#### ○ 旅する美術館

より多くの県民が、身近な場所で気軽に本物の美術作品に親しめるよう、県内2市村で当館の収蔵作品展を開催した。また、会場近隣の小中学校等で、美術館オリジナル映像番組の鑑賞や造形体験を行う「旅する美術教室」を実施した。

旅する美術館(収蔵作品展)		
市 町 村	西 米 良 村	西 都 市
会 期	令和4年11月10日(木)~11月13日(日)(計4日間)	令和4年11月22日(火)~11月27日(日)(計6日間)
会 場	西米良トレーニング施設	西都市役所(多目的スペース)
展示作品数	16点	18点
入場者数	332名	923名

旅する美術教室		
期 日	会 場	参加人数
11月14日(月)	新富町立新田小学校	29名
11月17日(木)	西米良村立村所小学校	21名
11月22日(火)	学びの丘 上新田学園	42名
11月25日(金)	西都市立妻南小学校	70名
12月2日(金)	宮崎県立妻高等学校	31名

#### ○ 旅してアート(アートトーク): 招聘作家 石黒 賢一郎氏

美術作家や美術の専門家等を招聘し、講師と直接触れ合える講演会やワークショップを開催した。

講 師	特別展 ホキ美術館名品展 出展作家 石黒 賢一郎 氏
日 程	令和4年8月7日(日) ①11:00~12:00 ②14:00~15:00
会 場	宮崎県立美術館 1階 アートホール
内 容	作家の作品についての講演とワークショップ
参加者数	59名

⑤ アートシアター・映像ブース

当館では、美術の普及を図るため、館オリジナルの番組や特別展関連番組等をアートシアターや映像ブースを利用して県民の鑑賞に供している。

令和4年度は、感染症対策として条件付きで貸出可能としたが、一般貸出の実績はなかった。子ども美術館DAY!では、令和3年度わくわくアート作品「ガラッパどんと暮らす村」を上映した。

⑥ 県民ギャラリー

県民の美術文化向上のために、作品発表及び鑑賞の場として県民ギャラリー等を貸し出した。新型コロナウイルス感染拡大に伴う内定取消しもあったが、多くの県民の利用があった。

絵画	彫刻	工芸	デザイン	写真	書	総合美術	その他	計	入場者数
8件	1件	0件	0件	1件	4件	0件	15件	29件	24,810名

⑦ アトリエ開放

県民の創作活動を支援するため、専用設備を備えたアトリエを毎週火曜日、木曜日、日曜日(休館日を除く)に開放した。利用状況は次のとおりである。

種別	油彩	水彩	版画	デッサン	彫刻	陶芸	その他	計
利用者数(一般開放)	0名	0名	0名	9名	0名	15名	38名	62名

⑧ インターンシップ、職場体験学習等

キャリア教育に係る就業体験の場として、生徒の実習を受け入れた。展示室やインフォメーションでの来館者対応業務の補助や講座等の準備、備品等の確認や補修など、様々な体験実習を行った。

学校	受入人数	期間
宮崎県立宮崎東高等学校	3名	令和4年7月26日(火)～7月28日(木)(3日間)
宮崎県立佐土原高等学校	3名	令和4年10月26日(水)～10月28日(金)(3日間)

⑨ 博物館実習

博物館法及び同法施行規則に基づき、学芸員資格取得をめざす学生の博物館実習を受け入れた。

美術館の運営並びに資料の収集・展示・保存、専門事項に係る基本的な講義の他、調査・研究及び美術の普及活動等の実際的な体験実習を行った。

所属大学	受入人数	期間
九州産業大学	1名	令和4年8月13日(土)～8月21日(日)(8日間)

(4) 資料整備

① 美術資料

- 収集方針
- ・郷土出身作家及び本県にゆかりのある作品
  - ・わが国の美術の流れを展望するにふさわしい作品
  - ・海外のすぐれた作品

この方針のもとに、昭和63年から資料の収集を進めており、平成元年度には美術品等取得基金を創設し、収集計画のもと美術品の系統的な収集を行っている。厳しい財政事情から、近年はこの基金の執行凍結を余儀なくされていたが、平成27年度の条例改正により基金の活用が可能となった。

令和4年度は一般会計予算でシュルレアリスムの作家の作品5点を購入した。また寄贈作品6点も加え、同年度末の収蔵作品数は、4,254点となっている。

② 図書資料

平成5年度から年次的に整備を進め、令和4年度末現在23,033冊になっている。図書の主

なものは、美術図書室に配架し県民の閲覧に供するとともに、美術情報の提供や県民からの照会や相談に応じる際の資料としている。

○ 蔵書規模(R5. 3. 31現在)

種 別	冊 数
図 書	10,601
図 録 等	10,885
合 本 雑 誌 等	1,547
計	23,033

配 架 場 所		冊 数
開架	美術図書室	4,559
閉架	資料室等	18,474
計		23,033

③ 当館所有番組

本館ではアートシアター、映像ブース、移動鑑賞教室などの場において、美術作品などを良質な画像で県民の鑑賞に供しており、これらで使用するソフトの整備状況は、静止画番組318タイトル、館制作オリジナル番組40タイトル、動画番組11タイトルの計369タイトルとなっている。

## 第4節 県総合博物館

### 1 設 置

宮崎県総合博物館は、考古・歴史を柱とする博物館として、昭和26(1951)年4月に設立された宮崎県立博物館を前身としている。その後、昭和46(1971)年3月には明治百年記念事業に伴う整備事業により、自然と美術分野を加え、機能を充実させて総合博物館として開館した。

平成7年(1995)には宮崎県立美術館の設置に伴い美術部門が移管され、また、平成10年(1998)5月には21世紀に向けた文化施設にふさわしい博物館に再生するため、「県総合博物館再編整備事業」により、展示室等を改修し、リニューアルオープンした。

現在、県総合博物館には、自然史、歴史及び民俗の3つの常設展示室があり、宮崎の自然と歴史について約8,000点の資料を使って紹介している。

このほか、県総合博物館東側の民家園には、移築復元した民家（国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟）を屋外展示している。

#### 【施設の概要】

- 県総合博物館・・・鉄筋コンクリート2階建（建築面積 4,122.29㎡、延床面積 7,366.74㎡）
  - ・常設展示室 2,645.80㎡（自然史 844.20㎡ 歴史 767.70㎡ 民俗 1,033.90㎡）
  - ・特別展示室 751.68㎡
  - ・その他(収蔵庫・事務室等) 3,969.26㎡
- 民家園・・・木造平屋建寄棟造（茅葺）
  - ・旧藤田家住宅（国指定重要文化財）90.44㎡
  - ・旧黒木家住宅（国指定重要文化財）131.88㎡
  - ・米良の民家（県指定有形文化財）110.13㎡（本屋 78.37㎡、馬屋 31.76㎡）
  - ・椎葉の民家（県指定有形文化財）137.97㎡

### 2 事業実績

#### (1) 調査研究

##### 【調査研究の基本的な考え方と目標】

##### ○調査研究の基本的な考え方

- (ア) 県民に還元できるものであること。
- (イ) 県総合博物館の設立目標に沿ったものであること。
- (ウ) 将来展示等に活かされるものであること。
- (エ) 科学的・客観的なものであること。

##### ○調査研究の目標

- (ア) 館共通：宮崎の自然史と歴史に関する調査研究を行う。
- (イ) 分野別
  - ① 自然史分野：宮崎の自然に関する基礎研究を行う。
  - ② 歴史分野：歴史・民俗を通してみる郷土の伝統と地域性の研究を行う。

#### ア 個別テーマ調査研究

各部門の担当職員が個別の研究テーマを設定し、調査研究を以下のとおり実施した。

- ・動物：① 宮崎県内のモグラについて  
② 宮崎県内のササラダニ類の群衆組成について
- ・植物：① 宮崎県沿岸に産する海藻類について  
② 県内の照葉樹林に発生する発光菌類について
- ・地質：① 清武地域の入戸火砕流堆積物の分布について  
② 五ヶ瀬地域の珪質岩より産出する三疊紀コノドント化石
- ・考古：① 古代・中世の日向国をめぐる社会景観の考古学的研究
- ・歴史：① 新学習指導要領に対応した博学連携のあり方  
② 「日向記」に関する基礎的研究
- ・民俗：① 薩摩かくれ念仏について

【令和4年度の報告書】※令和5年3月発行の『宮崎県総合博物館研究紀要第43輯』に掲載した。

- ① 宮崎市神宮におけるコウベモグラの部分白化個体について
- ② 九州新産オオタマツリスゲ（カヤツリグサ科）について
- ③ 宮崎県沿岸に産する海藻類について－宮崎市青島とその周辺に打ち上げられた海藻類調査報告I－
- ④ 延岡市沖田川産出の貝類群集による古環境推定
- ⑤ 宮崎県の河川中流域の蛇行流路について
- ⑥ 宮崎県より産出するコノドント化石の研究史
- ⑦ 宮崎市池内町字小鹿黒出土の平安時代の土器群について
- ⑧ 薩摩のかくれ念仏について
- ⑨ 特別展「モンスター水族館～深海魚とサメのひみつ～」実施報告
- ⑩ 伊東家家臣壱岐加賀守上京行程の復元

#### イ 総合調査研究

近年の開発や社会生活の変化などにより、私たちを取り巻く自然や人々の生活習慣が失われてきていることから、これらの貴重な自然や歴史に関する資料を記録に残すため、県内のエリアを設定して、動物・植物・地質・考古・歴史・民俗の6部門において、総合的かつ横断的な調査研究を行っている。

自然環境の形成や人の営みの基本となる水系に着目して、平成27年度から県内の一級河川を対象にした総合的な調査研究を実施しており、令和元年度から令和5年度は五ヶ瀬川・北川水系に着目した調査研究に着手し、調査研究で得られた結果は研究報告会における発表や研究紀要により地域や本県全体に広く周知していく予定である。

【6部門のテーマ】

- ・動物：五ヶ瀬川水系の動物相について
- ・植物：五ヶ瀬川源流部の白岩山周辺の植物相
- ・地質：五ヶ瀬地域の秩父帯にみられる古生物相
- ・考古：五ヶ瀬川・北川流域の弥生時代から古墳時代の遺跡の動態
- ・歴史：五ヶ瀬川・北川流域における治水・活用の歴史
- ・民俗：川の道～五ヶ瀬川・北川を通してみた人々の暮らし～

ウ 調査研究報告会

総合調査研究や個別テーマ調査研究などの状況報告と、学芸課職員の専門性の向上を図る目的で、調査研究報告会を令和5年3月14日に県総合博物館で実施し、36人の参加者（うちZoomによる参加7名）があった。

【発表題目一覧】

- ・動物：宮崎市神宮におけるコウベモグラの部分白化個体について
- ・動物：神宮の森と行勝川周辺のササラダニ類の比較
- ・植物：青島とその周辺に打ち上げられた海藻類調査報告Ⅰ
- ・植物：新種「キリシマギンリョウソウ」について
- ・地質：五ヶ瀬一椎葉地域に分布する珪質岩と三疊紀コノドント化石
- ・地質：宮崎県の河川中流域の蛇行流路について
- ・考古：宮崎市周辺域における奈良・平安時代の水田遺構について
- ・歴史：伊東家家臣壱岐加賀守上京行程の復元
- ・民俗：薩摩のかくれ念仏について

(2)資料の収集・保存

ア 資料の収集

- (ア)資料収集件数：1,141点
- (イ)その他の資料：図書・文献等の収集 868点

イ 資料の整理・登録

① 資料の登録数

分野・部門	登録資料数	(令和4年度登録資料数)
自然史	動物	63,701点 (40点)
	植物	59,366点 (426点)
	地質	6,662点 (310点)
	計	129,729点 (776点)
歴史	考古	1,707点 (17点)
	歴史	5,684点 (347点)
	民俗	12,932点 (0点)
	計	20,323点 (364点)
美術	工芸(刀剣類)	107点 (0点)
	彫刻(屋外展示)	9点 (0点)
	計	116点 (0点)
総計	150,168点 (1,140点)	

② デジタルミュージアムへのデータ登録

県教育庁文化財課が平成14年度から運営するサイト「みやぎきデジタルミュージアム」へ、令和4年度は222件のデータ登録を行った。

ウ 資料の保存

- (ア)IPMウォッチング (年12回…展示室・収蔵庫・エントランス・研修室・管理棟等)  
虫菌害の発生の有無を調べ、資料保存に適した環境に改善するため、館職員による点検を行った。
- (イ)モニタリング (年12回…展示室・収蔵庫・エントランス(計80か所))  
害虫の侵入及び発生状況を把握するために粘着トラップを設置した。
- (ウ)収蔵庫内の目視・清掃 (年12回)
- (エ)薬剤による管理 (9月に収蔵庫でガス燻蒸を実施。)

(3)展示

ア 常設展示

常設展示室は自然史、歴史及び民俗の3つのフロアからなり、宮崎の自然と歴史について、実物を中心に約8,000点の資料を使って分かりやすく紹介するとともに、解説等を行う展示解説員の配置や随時の資料入替えを行うことによりサービスの充実を図っている。

(ア)自然史展示室

県総合博物館1階にある自然史の展示は、「宮崎の森」「宮崎の水辺」「宮崎の大地」「宮崎の生物」「ふるさとの自然」の5つのコーナーから成り、学校教育はもちろんのこと生涯学習の場になるように、できる限り宮崎県の実物資料を中心に構築するとともに、生きものの生態などについては、ジオラマやレプリカ、模型等を使ったり、体験的装置や情報機器も導入することによって、来館者が肌で実感し、より親しめるよう工夫している。

また、屋外では、県総合博物館入り口北側に、串間市で発掘された縄文から弥生時代のクスノキや日之影町で採取された二枚貝のメガロドン石灰岩を展示している。

(イ)歴史展示室

県総合博物館2階にある歴史の常設展示は、自然史展示室の照葉樹林ジオラマとの関連づけた導入部と、通史的に構成する「日向のあけぼのに生きる」「古代から近世を生きる」「発展しつづける宮崎」の3つのコーナーから成り、人々の生活史を大きな柱として、現在の宮崎県域の約2万年前の旧石器時



代から現代にいたる歴史の流れを紹介している。

(ウ)民俗展示室

県総合博物館2階の歴史展示室に隣接する民俗の常設展示は、「山にくらす」「里にくらす」「海にくらす」「いのりとまつり」の4つのコーナーから成り、国指定重要有形民俗文化財の「日向の山村生産用具」をはじめとする実物資料を中心に、原寸大の模型や映像、パソコン検索等を多用して、観覧者が実体験しながら楽しめる展示としている。

また、導入部に配置した「民俗へのいざない」では、炭焼き小屋のジオラマを展示し、宮崎の豊かな風土と人々の営みを表現し、中央に配置した「こころのロード」では、映像と音声により県内の代表的な年中行事と人々の精神世界を紹介している。

(エ)多言語音声ガイドシステムの導入

海外からの利用者にも博物館設備を楽しみながら利用してもらい、宮崎の自然や歴史について幅広く知ってもらうための一つのツールとして多言語音声ガイド「音えんぴつ」を導入している。

イ 特別展示

(ア)「第42回SSP展～自然を楽しむ科学の眼～」

a 会 期：令和4年4月29日(金)～6月12日(日) 開催日数：40日間(無料入場)

b 主 催：宮崎県総合博物館・日本自然科学写真協会

c 趣 旨：写真に対する興味関心に応えるとともに、動物や植物、自然環境への関心を高める。

d 内 容：顕微鏡・科学・昆虫・節足類、水中・水棲生物、鳥類、哺乳類・両生爬虫類、植物・菌類、山岳・天体・自然風景に分類された155点の写真部門、10点の動画部門の作品を展示し、作品に登場する動物の剥製や乾燥標本、化石・岩石標本、模型、レプリカなどを展示した。

e 関連行事：① 開会式およびガイドツアー  
② 子ども向け写真教室「生きものKids写真教室」  
③ ギャラリートーク(実施5回)  
④ 関連講座「プロに学ぶ写真撮影講座」  
⑤ 特別講演会「生きものの写真で伝えたいこと」

f 観覧者数：10,125人

(イ)「モンスター水族館～深海魚とサメのひみつ～」

a 会 期：令和4年7月9日(土)～9月4日(日) 開催日数：51日間(有料入場)

b 主 催：特別展「モンスター水族館～深海魚とサメのひみつ～」実行委員会  
(宮崎県総合博物館・宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・一般社団法人宮崎県教職員互助会)

c 趣 旨：深海魚やサメ類を中心に、海の生き物の多様性や生態について学ぶ事を目的とした展覧会である。生きものが持つ個性にクローズアップし、その特性を分かりやすく伝えるため、特別展のオリジナルキャラクターを製作して解説パネル等に活用した。

d 内 容：剥製や骨格標本、液浸標本の実物の展示だけではなく、生きている状態を再現するため、レプリカや生体復元模型を製作して展示した。

e 関連行事：① 開会式および内覧会  
② ウミガメのための海岸清掃  
③ 「恐怖!サメの大解剖」  
④ 「親子で学ぶ海辺～生き物と環境について～」  
⑤ 「潜入!『モンスター水族館』舞台裏」  
⑥ 「高校生プレゼンツ!海の生き物タッチプール」  
⑦ 「キャンドルナイトでSDGs」

f 観覧者数：62,378人

(ウ)特別展「発掘された日本列島2022」

a 会 期：令和4年11月5日(土)～12月11日(日) 開催日数：32日間/37日間(有料入場)

b 主 催：宮崎県総合博物館・文化庁・宮崎日日新聞社・全国新聞社事業協議会

c 趣 旨：日本全国で毎年約8,000件以上行われている発掘調査のうち、近年、特に注目された成果について広く公開する文化庁主催の巡回展。本展覧会は平成7年度の開始から令和4年度で第28回目を迎え、本県では平成12年(2000年度)に開催されて以来、22年ぶりの開催となった。

d 内 容：テーマを絞った特集展示や文化財を取り巻く現在の状況なども合わせて展示しながら、国民の共有財産としての文化財の魅力を発信した。

中核となる文化庁主催の巡回展示とともに、各開催館が独自に主催する地域展示を特別展のひとつの柱として同時開催した。

地域展示では魅力ある本県の遺跡や考古遺物を展示し、幅広い世代の方に興味関心をもってもらうだけでなく、その保護の重要性についての理解を深める機会とした。

e 関連行事：① 関連イベント「考古マルシェ」  
② 講演会「発掘された日本列島2022の見どころ」

f 観覧者数：4,612人

(エ)貸館「核兵器なき世界への連帯ー勇気と希望の選択 宮崎展」 開催日数：6日間

a 会 期：令和4年9月26日(月)～10月2日(日) (無料入場)

b 主 催：「核兵器なき世界への連帯ー勇気と希望の選択」展<宮崎展>実行委員会

c 内 容：核兵器がもたらす問題と恒久的な廃絶にむけた様々な取り組みをパネル展示で紹介した。

d 観覧者数：4,092人

(オ)貸館「大錯覚展 これって どうなってるの?」

a 会 期：令和5年2月10日(金)～4月3日(月) 開催日数：45日間(有料入場)

b 主 催：宮崎日日新聞社・UMKテレビ宮崎

- c 内容：不思議な大小の錯覚作品約120点を展示し、実際の形とは違って見えてしまう錯覚の驚きの世界が楽しく体験できる。
- d 観覧者数：34,797人（2月10日～3月31日は29,154人）

ウ エントランス・ロビー展示

県総合博物館1階のエントランスホールと2階民俗展示室前のロビーにおいて、1年を通じてトピックや季節ごとにテーマを設定し、部門の特色をいかした展示や、特別展に関連した展示、「宮崎の伝統工芸品」などの関連機関との連携した展示等を17回開催した。

エ 民家園

民家園は県総合博物館の東側に位置し、県内に残っていた地方独特の建築様式を持つ民家4棟を昭和47年から昭和53年にかけて移築復元したものである。これらのうち「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」は国の重要文化財に、「椎葉の民家」と「米良の民家」は宮崎県の有形文化財に指定されている。平成26～27年度に「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」の保存修理を実施し、引き続き平成28～29年度に「米良の民家」と「椎葉の民家」の保存修理を行い、令和元年度より、民間主体による民家園利用事業制度をスタートし、令和4年度は5回の利用があった。

(4)教育普及

県総合博物館の収蔵資料等を活用しての学校教育支援や博物館等講座を実施した。また、これらの博物館活動を展開するために関係機関・団体等の連携を図った。

ア 学校教育支援

(ア)学校の受け入れ（令和4年度実績：計210校）

- ① 小学校：106校
- ② 中学校：5校
- ③ 高等学校：3校
- ④ 特別支援学校：6校
- ⑤ 幼稚園・保育園・認定こども園：90校

(イ)授業への支援（令和4年度実績：10校）

県総合博物館職員が直接生徒や学生に説明や指導を行った。

- ① 宮崎西高等学校附属中学校「青島亜熱帯植物観察会」及び事前学習：80名
- ② 宮崎北高等学校「フィールドワーク」：39名
- ③ 延岡高等学校「普通科SDGsフィールドワーク」：40名
- ④ 宮崎市立大宮小学校「授業支援（地質部門）」：144名
- ⑤ 宮崎大学教育学部附属小学校「授業支援（民俗部門）」：101名
- ⑥ 宮崎市立広瀬小学校「授業支援（民俗部門）」：106名
- ⑦ 宮崎大学地域創生学部との連携：90名
- ⑧ 宮崎大宮高等学校への協力：50名
- ⑨ 宮崎市立木花小学校への協力：64名
- ⑩ 小林市立東方小学校への協力：17名

(ウ)学校への資料貸出し

授業等で活用することの多い資料をセットにして学校への貸出しを実施

・令和4年度実績：小学校 2校、大学 1校

(エ)職場体験学習・インターンシップの受け入れ

中学校の職場体験学習の受け入れ

令和4年度実績：中学校 1校（1人）

(オ)博物館実習生の受け入れ

学芸員資格取得を希望する大学生の受け入れ

・令和4年度実績：7大学（7人）

イ 展示解説員による普及活動

来館者へのきめ細やかなサービスを提供するため、平成12年度から展示解説員制度をスタートさせた。

展示解説員は、学校やその他の団体の来館時対応や展示解説を担当するほか、来館者の案内や問い合わせの対応を行っている。また、常設展示室において、紙芝居・クイズラリーなどの催し物の運営を行っている。

(ア)常設展示室の展示解説

・令和4年度に展示解説を受けた方：5,293人

(イ)催し物の運営

- ①紙芝居(毎週日曜日及び祝日)：令和4年度参加者（3,566人）
- ②むかしのあそび体験ひろば(毎月第1・3・5土曜日)：令和4年度参加者（791人）
- ③クイズラリー(通常版：毎月第2・4土曜日、特別版)：令和4年度参加者（756人）

(ウ)地域回想法「博物館で思い出を語ろう！」事業の実施

・令和4年度実績：26回

(エ)「博物館わくわく通信」の発行

・令和4年度実績：2回発行（4月・10月）

ウ 博物館講座

博物館講座は、県総合博物館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとに、県民に自然や歴史に関する多様な体験・学習の機会を提供することを目的に実施している。年間を通じて部門ごとに実施する普及講座のほか、特別展示に関連して実施する講座を実施した。

(ア)普及講座 (25講座中24講座を実施、参加者：492人)

部門	講座名	実施日	場所	参加者数
歴史	よろい・かぶと着用体験!	5月5日	エントランスホール	5
民俗	地 鶴戸山の民俗を学ぼう	5月7日	鶴戸神社	40
植物	地 加江田溪谷ハイキング「シダ・コケ植物観察会」	5月14日	加江田溪谷	25
地質	最新研究特別講座「日向灘地震にそなえよ!」	5月15日	研修室1	19
植物	間違った愛に追われて～繁殖干渉が変える生物の分布～	6月4日	研修室1	37
歴史	室町時代の日向国(一)守護島津氏と伊東氏(宮崎の歴史を学ぶ1)	6月11日	研修室1	30
植物	地 きのご観察会	7月2日	猪八重溪谷	18
地質	標本講座「海岸の砂のプレパラートをつくろう!」	7月30日	研修室2	27
植物	標本講座「夏休みの自由研究 押し葉標本をつくろう!」	7月31日	研修室2	17
自然史	採集作品の名前を調べる会	8月6日	情報室	中止(コ)
植物	地 家田湿原植物観察会	10月8日	家田湿原	8
民俗	薩摩かくれ念仏を支援した日向の一向宗寺院(みやざきの民俗を学ぼう)	11月5日	研修室1	15
植物	体験講座「ドングリクラフト」をつくろう	11月12日	研修室1	7
歴史	延岡城西之丸と内藤家邸宅-延岡城・内藤記念博物館へと至る道-(宮崎の歴史を学ぶ2)	11月19日	研修室1	22
地質	地 大地のつくりを観察しよう(三之宮峡編)	11月20日	三之宮峡	9
考古	体験講座「ミニ銅鏡をつくろう!」	11月26日	研修室2	15
地質	地 大地のつくりを観察しよう(日之影編)	11月27日	日之影町	17
考古	南の縄文文化～JOMON! 万年の魅力～	12月3日	研修室1	30
動物	みやはくモンスタークエスト～土属性編～	12月4日	研修室2	13
民俗	佐土原人形絵付け体験	12月10日	研修室2	20
地質	地 鶴戸の球状コンクリーションを観察しよう	12月18日	日南市鶴戸	23
動物	ドキドキ ブタの目玉解剖学実習	1月28日	研修室2	18
歴史	貝合わせを作ろう	2月18日	研修室2	20
考古	地 中世の山城を攻めろ!～小林市須木城の巻～	3月4日	小林市須木城	29
地質	化石レプリカをつくろう!	3月19日	研修室2	28

※ 地は地域講座、(コ)は新型コロナウイルス感染拡大による中止

(イ)特別展示関連講座 (8講座を実施、参加者：238人)

講座名	実施日	場所	参加者数
講演会「生きもの写真で伝えたいこと」	4月17日	研修室1	29
生きものKids写真教室	5月4日	エントランス 神宮の森	29
写真教室「プロに学ぶ!写真撮影講座」	5月29日	研修室1	28
ウミガメのための海岸清掃	5月1日	一ツ葉海岸	51
恐怖!サメの大解剖	8月5日	研修室2	8
キャンドルナイトでSDGs ～海の生き物に未来を～	8月19日	青島海岸	33
親子で学ぶ海辺 ～生き物と環境について～	10月22日	青島海岸	18
講演会「発掘された日本列島2022の見どころ」	11月13日	研修室1	42

エ 民家園を活用した普及事業

国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟の計4棟の古民家からなる民家園の活用事業(民家園民俗文化体験事業)を実施するとともに民家園ボランティアによる火入れ等や県内の語り部の会によるみやざきの昔話公演、民家園の貸出しなど実施している。

(ア)火入れ

民家園ボランティアによる民家の囲炉裏の火入れを毎週土曜日に実施した。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、活動を中止した期間があった。

(イ)伝統文化体験講座

民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう!

・実施日：令和4年12月17日(土)

・参加者：30人

- (ウ)「みやぎの昔話」公演  
毎月第3土曜日(9月、12月、1月を除く)に宮崎県内に伝わる昔話の公演を年5回実施した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月、5月、7月、8月は中止した。  
・参加者：92人
- (エ)昔のくらし体験  
民家園ボランティアが指導者となり、小学生などを対象に、各民家の囲炉裏や石臼、唐箕などの昔の道具の使い方の指導を年2回開催した。  
・参加者：60人
- (オ)民家園利用事業  
個人や団体を対象に、民家園を利用する事業を実施している。新型コロナウイルスの影響で利用状況は厳しかったが、レコードコンサートやジャズ演奏会など5回の実施があった。  
・参加者：136人
- (カ)民家園春祭り  
民家園内において、「昔の遊び」・「昔のくらし体験」・「昔話公演」・「民謡公演」・「ジャズの演奏」・「お琴の演奏」など様々な催しを開催した。  
・実施日：令和5年3月18日(土)  
・参加者：469人
- オ 「どこでも博物館」事業  
県総合博物館が所在する宮崎市から距離があり、訪れることが難しい地域の県民を対象に、博物館が向き、展示の紹介や体験講座を行う「どこでも博物館」事業を平成27年度から実施しており、令和4年度は、6月(日之影町 日之影町中央体育館)・10月(小林市 小林市立東方小学校)・11月(都城市 都城市立笛水小中学校)で実施し、計487人の参加があった。
- カ 関係機関との連携  
他の博物館や研究機関、さらに教育関係機関と連携し、調査研究等のための職員派遣・招聘、展示等に伴う資料の貸出し・借用、情報交換等を行った。
- |                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| (ア)職員派遣：                         | 計15件(22回)       |
| (イ)研究者等の招聘：                      | 計14件(15名)       |
| (ウ)視察・調査等で来館された関係機関：             | 計5機関(県外：4、県内：1) |
| (エ)資料の貸出し：                       | 計9機関            |
| (オ)県総合博物館が資料を借用又は展覧会等で協力を得た関係機関： | 計85機関           |
- キ 名古屋大学博物館との相互協力協定  
令和元年12月12日に名古屋大学博物館と相互協力に関する協定書を調印し、協定を締結した。令和4年度は、博物館講座として2講座(吉田英一教授、西田佐知子准教授)を実施し、当館職員が3月に連携調査と連携展示協力の打ち合わせのため訪問した。
- ク 宮崎大学との連携  
宮崎大学地域資源創成学部は、「地域理解実習」のカリキュラムにおいて「コロナ禍で地域社会・まちづくり・地域資源の利活用はどのように変化したか？」をテーマに掲げ、総合博物館が協力して宮崎県の地域資源や自然史、歴史、民俗を学ぶ講義を行った。
- ケ 福祉施設との連携  
県総合博物館を利用する児童、高齢者、障がい者の福祉施設は、近年増加傾向にあったが、令和4年度は延べ80団体・施設、763人の来館となった。  
このうち、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に、平成27年度から展示解説員がコーディネーター役となり、博物館にある「昔の道具」等を用いて、「博物館で思い出を語ろう！」事業(他県では地域回想法とも呼ばれている)を令和4年度は対象団体を公募し、計26回実施した。  
また、施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」などをパッケージにした「貸出しキット」を用意しており、令和4年度は7回の利用があった。
- コ レファレンス対応  
日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも何にでも相談にのれる博物館」を目指し、来館時の質問だけでなく、電話やメールでのレファレンスにに応じている。  
令和4年度のレファレンス件数は、347件であった。
- サ 県内研究団体の発表会  
県内の自然史系研究団体が集い、お互いの研究成果を発表し合う合同研究発表会を実施しており、11回目の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。
- シ 博物館友の会の活動支援  
博物館の活動支援を目的として平成11年8月に設立され、令和4年度で23年目を迎えた。  
(ア)会員数：(個人会員：34人 ジュニア会員 1人 賛助会員：1団体)  
(イ)物品販売：「SSP展図録」を委託販売、「水モン図鑑」販売  
(ウ)刊行物発行：会報「おーちゃんだより」112号～115号
- ス 研修室の利用  
3つの研修室(研修室1：60人、研修室2：32人、研修室3：8人)は、主に博物館の諸活動で利用しているが、外部団体から利用依頼があった場合、利用条件を満たしていれば、博物館活動に支障が来さない範囲で貸し出しに応じている。  
令和4年度は、23件(680人)の利用があった。
- セ 情報室の利用  
「みんなの情報室」では、国内の主な博物館の図録や6部門の関係書籍の他、視聴覚資料を閲覧できる。また、令和元年から未就学児を含む親子などが楽しみながら学べる「おーちゃん広場」を設置した。令和4年度は1,112組3,456人の利用があった。

### 3 情報発信及び経営

#### (1) 情報発信

県内外の方々、博物館に興味を持ち気軽に訪問していただくとともに、県総合博物館を訪れる際に十分に満足してもらうため、施設の運営状況や活動状況等に関する情報発信を様々な方法で行った。

ア 広報推進委員会：年12回開催

イ 博物館だよりの発行（年2回）

① みやはく通信 第2号 発行：令和4年4月 第3号 発行：令和4年9月

ウ ホームページの運用

(ア) 令和4年度更新回数：年626回更新（月平均/52.2回更新）

(イ) 平成28年から開設したSNSでは、Facebookが159件、Twitterが164件、Instagramが152件の投稿を行った。

(ウ) ホームページへのアクセス件数：年間 348,168件

エ 県広報紙等への掲載

(ア) 県政けいじばん（毎月第2、4日曜：新聞5社に掲載）：年11回

(イ) 県広報紙「県広報みやざき」：年6回

オ その他の広報及びイベント

(ア) 4館見学ツアー（令和4年度実績：3団体35人利用）

(イ) 県庁職員の情報ネットワークを活用したイベント情報等の発信を行った。

(ウ) 令和4年4月29日（金）に県内の小学生2名、中学生1名を「一日博物館長」に任命し、第42回SSP展の開会式を行った。

(エ) 観光関係機関等へのPR

宮崎市内のホテルや観光案内所などの観光関係機関、国際交流関係機関、文化団体、館周辺の飲食店などを直接訪問し、特別展等のポスター・チラシなどを配布し、説明を行った。

(オ) 博物館こどもDAY

令和4年11月6日（日）の文化の日に実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策も考慮し、会場を館内外に分散させて開催した。

特別展「発掘された日本列島2022」のギャラリートークや文化の日クイズラリーなど盛りだくさんの内容で実施した。

なお、埋蔵文化財センター施設公開と同日共同開催を行い、入館者を相互に行き来させる良い機会となった。

(カ) クリスマスツリー設置とクリスマスコンサート

来館者の少ない冬場に入館を促すため、クリスマスツリー設置やクリスマスコンサートを実施した。

#### (2) 経営

魅力のある総合博物館として適正な管理運営を行うため、来館者へのアンケート調査を行うとともに来館者の安全・安心を確保するため、職員研修や危機管理に対応する訓練等を実施した。

ア 来館者のアンケート調査

館運営に対する意見をいただく目的で、1階と2階にアンケート記入場所を設置した。

(ア) 個人アンケート（有効回答件数：798件※うち1件はオンラインアンケートの回答）

(イ) 学校団体アンケート（有効回答件数：81件）

(ウ) 一般団体アンケート（有効回答件数：110件）

(エ) 特別展アンケート（有効回答件数：1,027件）

イ 職員の資質向上

(ア) 基本研修：全職員を対象にコンプライアンスや危機管理対応など基礎的な研修を年3回実施

(イ) 県外研修等：「学芸員専門研修」等に年11回、延べ12人の職員が参加

(ウ) 展示解説員への研修：学芸員の案内による自然や史跡などの実地見学や経験年数に応じた実務研修等

ウ 危機管理

博物館は、広く県民が利用する施設であり、毎日多くの来館者が訪れ、また、県民の財産である貴重な資料の収蔵や民家4棟を移築復元していることなどから、各種の危機事象に適切に対応するための「危機管理マニュアル」や「防火管理規程」を作成して、職員への防災・防火訓練を実施した。

(ア) 防災・防火研修（令和4年4月19日）

・危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象に応じた対処方法等の研修

(イ) 避難訓練（令和4年6月14日・令和4年9月13日・令和5年1月21日）

・日向灘南部を震源とする震度5の地震を想定した防災訓練を計画し、全職員による避難誘導や伝達訓練を実施した。また、民家園からの火災を想定した防災訓練を、埋蔵文化財センター分館職員と宮崎北消防署の合同で行った。

エ 県内にある博物館等との連携

【宮崎県博物館等協議会】

(ア) 会員数：36施設（令和5年3月31日現在）

(イ) 令和4年度の活動状況

a 役員会、総会・第1回研修会：令和4年6月3日（金）

・会場：宮崎県立美術館（内容：令和3年度事業報告、決算報告等及び令和4年度事業計画、収支予算・ミュージアムマップ2022年度製作、配布・ホームページ移動等説明・研修会）

b 第2回研修会：令和4年10月26日（水）

・会場：延岡市 延岡城・内藤記念博物館（内容：研修・情報交換・視察）

c 役員館の担当者会：令和5年2月15日（水）

・方法：オンライン会議（内容：令和5年度の事業及び予算案の検討）

d 機関誌の発行

・『宮博協だより 日向路の博物館27号』を令和5年3月に発行

## 第5節 県立西都原考古博物館

### 1 設 置

県立西都原考古博物館は、宮崎県総合博物館の構成施設であった「西都原資料館」を再編整備するとともに、同「西都原古代生活体験館」を構成施設に加え、平成16年4月に開館した。西都原考古博物館は、館と古墳群全体を一つの博物館と捉える「フィールドミュージアム」として、「NPO法人との協働」による県民参画型の博物館運営を行っており、「常新展示」の方針のもと、常時、約850品目の展示を行っている。

また、施設は「ユニバーサルデザイン」に重点を置いた設計で、安全・安心で利用しやすい施設となっている。

なお、構成施設は次のとおりである。

○考古博物館（延床面積6,678㎡）西都市大字三宅字西都原西5670番

○古代生活体験館（ // 1,014㎡）同

○西都原古墳群遺構保存覆屋（延床面積1,394㎡）古墳群内

○13号墳内部主体見学施設（ // 22㎡）同

○4号地下式横穴墓保存見学施設（ // 21㎡）同

○鬼の窟古墳

### 2 事業実績

#### (1) 展示活動

入館者数 63,395人（内、特別展等開催期間 43,303人）

※令和4年4月1日～令和5年3月31日（開館日数298日）

#### ア 常新展

「プロローグ・古墳時代前史・前方後円墳の世界・地下式横穴墓の世界・古墳時代の終焉・律令体制の時代・考古学の世界・考古学研究所」を展示構成の基本に据え、常に新しい情報の展示を目指している。

#### イ 特別展等

##### (ア) 企画展Ⅰ「西都原古墳群～特別史跡指定70年のあゆみ～」

会 期：令和4年4月23日（土）～令和4年6月26日（日）

入館者：10,924人

内 容：国の特別史跡に指定されて、今年で70年目を迎えた西都原古墳群について、人々がどのように古墳群を守り継いできたのか、当時の文献や記録類、発掘された出土品等通じて紹介し、現代に至るまでの当古墳の保護と活用の歴史を振り返った。

##### 関連事業

講 座：「西都原古墳群の歴史を振り返る」

期 日：令和5年5月28日（土）

場 所：考古博物館ホール

講 師：学芸普及担当 主幹 日高 広人

聴講者：41人

##### (イ) 特別展「飛び道具の技術文化史～旧石器時代から西南戦争まで～」

会 期：令和4年7月9日（土）～令和4年9月4日（日）

入館者：10,555人

内 容：人類の特徴の一つと言ふべき「飛び道具」の製作・利用をテーマとして、旧石器時代から西南戦争までの巨視的な変遷を描く展示。投げ槍や弓矢、クロスボウ、鉄砲など陸上の飛び道具のほか、長崎県平戸市「つぐめのはな遺跡」の捕鯨用石銛など、水域の飛び道具についても考古資料をもとに紹介した。また西都原考古博物館初紹介として長崎県松浦市「鷹島海底遺跡」の「てつはう」、美郷町北郷「辰之元遺跡」の安山岩製大形尖頭器も展示した。

##### 関連事業

講演会：「飛び道具の考古学～狩猟と戦闘をめぐる人類史～」

期 日：令和4年7月24日（日）

場 所：考古博物館ホール

講 師：千葉県松戸市立博物館 藤原 哲 氏

聴講者：28人

- (ウ) 国際交流展「古墳時代の台所革命と東アジア～美味なる“ごはん”の考古学～」  
会期：令和4年10月8日（土）～令和4年12月11日（日）  
入館者：13,506人  
内容：我が国の食文化の中心にある「米」の調理法とその調理施設について、歴史的進化の過程を東アジア的視座から読み解く。特に、朝鮮半島由来の「カマド」の導入を契機として住まいの中に「台所」が成立するという古墳時代の食と住の変革を「台所革命」と位置づけ、南部九州と他地域の様相を展示物を通じて解説した。なお、朝鮮半島関連資料展示については、学术交流協定先である韓国国立羅州博物館の協力を得た。

関連事業

講演会：「古代の九州南部とアジアを結ぶウルチ米蒸調理の展開」

期日：令和4年10月29日（土）

場所：考古博物館ホール

講師：熊本大学大学院 久保田 慎二 准教授

立命館大学 長友 朋子 教授

北陸学院大学 小林 正史 教授

聴講者：42人

- (エ) 企画展Ⅱ「伝統（かわらぬもの）と変革（かわるもの）～宮崎の弥生文化の特質～」

会期：令和5年1月14日（土）～令和5年3月19日（日）

入館者：8,318人

内容：弥生時代は、生業における「狩猟採集」から「稲作農耕」への変化、道具における「石器」から「鉄器」への変化、社会における「平等的社会」から「階層社会」への変化と、社会の様々な面で変化が生じた時代である。県内の弥生時代社会は、稲作農耕の開始という変化がいち早く見られる一方で、道具の素材として石器の使用を続けるほか、墓制における階層化が顕著でないなど、変化に乏しい一面も存在する。本展示会では、変化に乏しい石庖丁・磨製石鏃と、時代を通して変化する土器に焦点をあてて、県内の弥生時代の特色とその背景について考える機会とした。

関連事業

講座：「“冷たく”も“熱い”宮崎の弥生文化」

期日：令和5年2月11日（土・祝）

場所：考古博物館ホール

講師：学芸普及担当 主査 加藤 徹

聴講者：29人

- (オ) コレクションギャラリー展Ⅰ「帰ってきた遺物たち～令和4年度京都国立博物館考古資料相互交換展示～」

会期：令和4年6月15日（水）～令和4年7月3日（日）

入館者：2,255人

内容：独立行政法人国立博物館文化財機構京都国立博物館と西都原考古博物館の所蔵資料を相互に交換し、その地域の歴史・文化を広く発信する「相互交換展示」を行った。展示では約80年ぶりに里帰りした日向市東郷町と宮崎市源藤町の2つの地域の考古資料を紹介した。

- (カ) コレクションギャラリー展Ⅱ「考古学者のモノの見方①」

会期：令和4年9月7日（水）～令和4年10月2日（日）

入館者：2,775人

内容：土層の堆積の新旧（層位学的研究）やモノの形の変化（土器の型式変化等）を通じて、考古学での時間の変遷と「モノ」の変化を知るといった視点で陶器窯跡や宮崎県内出土の須恵器を使った展示を行った。

- (キ) コレクションギャラリー展Ⅲ「考古学者のモノの見方②」3D計測の可能性～立体を平面に、立体をそのままに映す～

会期：令和4年12月14日（水）～令和5年1月9日（日）

入館者：2,005人

内容：従来からの遺物の記録方法等と3Dデータを用いた計測の事例を取

り上げ、今後の文化財の保存や活用、今後の展望の一端について紹介した。

(ク) コレクションギャラリー展Ⅳ「考古学者のモノの見方③」肉眼で見えにくいものを見る

会 期：令和5年3月23日（木）～令和5年4月16日（日）

入館者：5, 525人

内 容：赤外線カメラや顕微鏡・拡大鏡などの機器を利用し、肉眼で見え難い資料（墨書土器やイネ科植物のプラント・オパール、香善寺地下式横穴墓出土鉄剣にある蠅のサナギ痕跡）の観察方法について紹介した。

ウ その他の展示

(ア) 通年企画展示「帰ってきた遺物たち～令和4年度京都国立博物館考古資料相互交換展示～」

内 容：独立行政法人国立博物館文化財機構京都国立博物館との「相互交換展示」をコレクションギャラリー展Ⅰ終了後も通年展示として、場所を変えて2月28日まで行った。

(2) 主な調査活動

ア 西都原古墳群保存整備事業

令和元年度から5か年で「西都原古墳群史跡整備推進事業」を実施しており、令和4年度は西都原265号墳の墳丘保存修理工事および酒元ノ上横穴墓群の遺構保存覆屋見学施設の屋根改修に関する調査（国庫補助金を活用）および、同施設の再整備工事（2箇年度目）等を実施した。

イ 世界遺産調査研究事業

非破壊的手法により地中の状況を把握する「地中レーダー探査」を実施し、西都原古墳群の全体像の解明と保存整備を目指している。本地中探査は、令和3年度から3か年で実施する「みやざきの古墳魅力発信事業」に位置づけられているもので、西都原の中間台地上に立地する鷺田支群を対象としている。令和4年度は、西都原古墳群198・199・306号墳を対象として行った。

また、古代歴史文化にゆかりの深い14県が連携した共同調査研究では、令和元年度より進めていた「古墳時代の刀剣類」が最終年度となり、その成果として『刀剣—武器から読み解く古代社会—』の図書刊行や大阪歴史博物館との共催による特別企画展『刀剣 古代の武といのり』（10月15日～12月4日）の開催、さらに九州3県の資料展示については九州歴史資料館の企画展『古代九州の刀剣』（1月18日～3月12日）を行った。なお、特別企画展にあわせて、10月30日には、第6回古代歴史講演会を大阪歴史博物館において開催し、講演会・シンポジウムを行うとともに、その様子を撮影した映像がWeb上で公開された。

ウ 博物館資料整備事業

考古資料（鉄製品、古人骨、土器、石器等）の整理、修復、保存処理、データベース化等の作業を行っている。特に経年劣化が進行する鉄製品については、国庫補助を受け保存処理を進めている。

(3) 国際交流事業

西都原考古博物館では、開館以来、東アジア地域との学術交流を行っている。

開館からの5か年は、韓国から資料を借用しての「日韓交流展」を、平成21年度からは台湾を加えて、日台韓による「国際交流展」を開催してきた。こうした国際交流展示会の開催は、東アジア地域の学術文化交流促進事業による人的交流等を含めた調査研究の実践の成果である。

これまでに、韓国国立中央博物館考古歴史部・韓国国立中原文化財研究所と学術文化交流協定を締結し、共同研究・展示会の共催・職員の相互交流等を行ってきた。

令和4年度において、台湾関係では「2022新北市国際考古論壇-古代人形文化探求」（令和4年5月）に西都原考古博物館職員が発表者としてオンライン参加した。韓国関係では人的交流を約2年ぶりに再開し、羅州博側は学芸研究士3名、考古博からは2名の相互交流を果たすことができた（令和4年11月・同5年2月）。



#### (4) 普及事業

##### ア 考古博講座

講座名	聴講者数	実施日	講師等
企画展Ⅰ関連講座	41人	5月28日(土)	西都原考古博物館 日高広人 主幹
特別展関連講演会	28人	7月24日(日)	千葉県松戸市立博物館 藤原哲 氏
特別展関連講座	12人	8月20日(土)	西都原考古博物館 松本茂 主査
国際交流展関連講演会	42人	10月29日(土)	熊本大学大学院 久保田慎二准教授、 立命館大学長友朋子教授、 北陸学院大学小林正史教授
国際交流展関連講座	38人	11月19日(土)	神戸市文化スポーツ局文化 財課 松島隆介氏
企画展Ⅱ関連講座	29人	2月11日(土)	西都原考古博物館 加藤徹 主査
考古博講座	18人	3月11日(土)	西都原考古博物館 橋本英俊 主査
計	208人		

##### イ 体験・実験講座

講座名	参加者数	実施日	備考
埴輪を作る	10人	6月5日(日)	
考古学って楽しい!	中止	7月30日(土)	
弓矢で的をねらう	15人	8月28日(日)	
アカネ色に染める	9人	9月25日(日)	
米を炊く・蒸す	13人	10月23日(日)	
ミニチュア土器を作る	10人	12月4日(日)	
弥生土器を作る	13人	2月19日(日)	
計	70人		

##### ウ 考古博物館少年団

少年団活動は、古代の状況に近い体験や製作活動を通じて、当時の人々の知恵や技術を学ぶとともに、古墳群や身近な史跡への理解や保護についての意識を醸成することを目的としている。

令和4年度は、40人が登録し活動を行った。「古代のくらしを楽しく学ぼう」というテーマのもと体験活動を中心に行ったが、台風の影響により、中止や計画変更等を余儀なくされた。

##### エ 古代生活体験館

特別史跡西都原古墳群保存整備事業により、縄文、弥生、古墳時代の古代生活を学ぶ施設として、平成9年7月13日に開館した。体験メニューについては、令和2年度より新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から勾玉づくりに限定して行っていたが、令和4年10月1日より感染状況の低下等により、土器や埴輪の制作と火起こし体験を再開した。

令和4年度に体験館を訪れた人数は7,652人で、その内の5,364人が実際に様々な活動を体験した。

#### (5) その他

##### ア 刊行物

- ・図録 特別展『飛び道具の技術文化史～旧石器時代から西南戦争まで～』
- ・図録 国際交流展『古墳時代の「台所革命」と東アジア～味なる“ごはん”の考古学～』
- ・『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』第19号
- ・『宮崎県立西都原考古博物館年報』2022(令和4)年度

##### イ 執筆・編集

- ・『特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書(XXV)』

## 第6節 県埋蔵文化財センター

### 1 設 置

宮崎学園都市建設をはじめとする大規模開発が増大するという情勢に対応するために、埋蔵文化財発掘調査体制の確立と、膨大な調査資料の整理・保管・活用を目的に、昭和56・57年度の国庫補助事業により埋蔵文化財センターを建設、昭和57年10月2日に開館し、県総合博物館埋蔵文化財センターとして業務を開始した。

平成8年4月1日に県総合博物館から埋蔵文化財の発掘調査機能をもつ県埋蔵文化財センターとして独立した。  
平成12年1月20日に佐土原町（現：宮崎市佐土原町）に新築移転し、宮崎市神宮の旧本館を分館とした。

### 2 業 務

- ・埋蔵文化財の調査研究
- ・出土品その他の資料の保存及び活用
- ・埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- ・埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- ・埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

### 3 施 設

<b>(本館)</b> 宮崎市佐土原町下那珂4019	
床面積 2,656.50 m <sup>2</sup>	
・本館（鉄筋コンクリート造一部木造平屋建）	1,745.99 m <sup>2</sup>
・附属建物（鉄骨造）	
整理作業棟	216.76 m <sup>2</sup>
・附属建物（鉄骨造）	
収蔵庫棟	693.75 m <sup>2</sup>

<b>(分館)</b> 宮崎市神宮2丁目4-4	
床面積 1,652.38 m <sup>2</sup>	
・分館（鉄筋コンクリート造2階建）	

### 4 令和4年度活動状況

#### (1) 発掘調査

令和4年度は、陣ノ元遺跡（宮崎市）、樋口遺跡（五ヶ瀬町）、都城（鶴丸城）跡（都城市）の3遺跡で本発掘調査を実施した。

#### (2) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。令和4年度に整理を実施した遺跡は4遺跡で、内訳は県道改良事業2遺跡・県有体育施設整備事業（陸上競技場）1遺跡、砂防関連事業1遺跡である。なお、令和4年度は整理作業の終了した3遺跡について発掘調査報告書を刊行した。

#### (3) 近代宮崎を知る・つなぐ～西南戦争関連遺跡総合調査～（文化庁補助事業）

令和2年度から3か年事業で本県の西南戦争（明治10年、1877年）関連遺跡の所在地や現況の把握と、今後の保存・活用を進めていくうえで必要な情報の収集を目的として、台場等の基礎的調査（文献調査や悉皆調査等）や重要な遺跡を対象とした測量調査を実施している。

令和4年度は、台場53基、墓・慰霊碑等31基、その他（建物等）23箇所の悉皆調査を行った。

【悉皆調査一覧（台場）】

市町村名	台 場 名	基 数
日之影町	阿下台場群、大楠台場群	8
延岡市	和田越台場群、檜山台場群	21
西米良村	一里山台場群	14
宮崎市	大久保台場	1
小林市	九瀬台場、太尾台場	2
えびの市	加久藤越台場群、百貫山台場群、溝園城跡台場	7

【悉皆調査一覧（墓・慰霊碑等）】

市町村名	墓 ・ 慰 霊 碑 等 名	基 数
日之影町	富士本長吉墓、新見宗吉墓	2
延岡市	西南之役陸地峠戦闘跡	1
高鍋町	丁丑戦亡記念碑	1
西都市	招魂之碑	1
宮崎市	戦没招魂塚、西郷隆盛翁駐在之跡、樹網鶴の墓石、太々御神楽標石、丁丑之乱戦死塚、招魂墓、顕彰碑、丁丑戦亡招魂塚、招魂碑	9
国富町	法難三法師の墓	3
綾町	丁丑役戦亡招魂塚	1
小林市	招魂社、供養費、奉招神魂牌、招魂塚、官軍兵卒本田半左衛門之碑、招魂塚、戦死追弔碑、西郷隆盛宿営之地	8
えびの市	飯野郷招魂碑、松形祐高墓碑、薩軍兵士無縁墓、馬関田郷招魂碑	5

【悉皆調査一覧（その他）】

市町村名	名 称	箇所数
延岡市	西南戦争激戦の地、西南戦争陸地峠水汲場、薩軍松瀬包帯所跡、西郷隆盛宿陣跡、奇兵隊本営跡、西郷隆盛宿陣の跡、小倉處平加療の地、南洲翁寓居跡、西郷菊次郎加療の地、桐野利秋宿営の地、西郷隆盛宿陣の跡、西郷隆盛宿陣址、山田顕義少将宿営の地	13
高鍋町	粉倉	1
宮崎市	旧福島邦成邸前瓦舗装路、谷村計介旧宅	2
小林市	小林本営跡地、西郷軍銃器製造所跡、西郷隆盛宿陣之地、別働第二旅団本営跡	4

えびの市	弾薬製造所、飯野のイチョウ、荒神堂タブ大樹	3
------	-----------------------	---

【測量調査一覧】

	遺跡名	所在地	調査期間
1	阿下台場群2号	日之影町七折	R4.11.22(実調査日数1日)
2	大楠台場群2・3号	日之影町岩井川	R4.12.8~R5.2.21(実調査日数12日)

【成果図書】

No.	報告書名	執筆・編集者
266	西南戦争関連遺跡総合調査成果報告書	堀田 孝博

(4) 教育普及活動

令和4年度の教育普及事業は、文化庁の補助事業（令和4年度から令和6年度まで）として移動展示会を主とした発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」を主要事業として実施した。埋文講座（年5回）、遺跡発掘成果展2022「再発見！1990年代調査の遺跡」、施設公開、分館展示のほか、出前講座等のアウトリーチ活動を実施した。令和4年度の分館入館者は5,157名であった。

ア 発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」（文化庁補助事業）

各種開発事業に先立って県内各地で行った発掘調査の成果を地域へ還元し、地域の特色ある埋蔵文化財の公開活用を推進するため、移動展示会と関連講座を3会場で開催した。

①名 称：発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」

②主 催：宮崎県埋蔵文化財センター

③共 催：門川町・門川町教育委員会  
日之影町・日之影町教育委員会  
宮崎市立図書館

④会場・会期

門川会場（門川町役場町民ギャラリー） 7月30日（土）～8月28日（日）  
日之影会場（日之影町役場町民ホール） 10月25日（火）～11月13日（日）  
宮崎会場（宮崎市立図書館2階展示コーナー） 1月18日（水）～1月30日（月）

⑤観覧者数

門川会場 10,307名 日之影会場 3,508名 宮崎会場 5,668名  
合計 19,483名（体験講座参加者含む。）

⑥関連行事（ギャラリートーク〔展示解説〕・体験講座（石器レプリカ、土器文様拓本、土器立体パズル）

門川会場 令和4年8月7日（日） 参加者 20名  
日之影会場 令和4年10月30日（日） 参加者 35名  
宮崎会場 令和5年1月22日（日） 参加者 39名

⑦ふるさとの遺跡学習会（移動展示会に関連した学習会）

門川町立草川小学校 令和4年6月16日（木） 参加者 57名  
日之影町内小学生 令和4年10月28日（金） 参加者 107名

## イ 埋文講座

近年発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告、また本県の歴史を考える上で重要な遺跡や当センターの事業報告の場として、分館研修室で講座を実施し、合計で146名の参加者があった。

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 R4.5.15	都城へようこそ ～都城盆地入り口の古墳時代集落～ 花木池平遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 和田理啓	29名
第2回 R4.7.17	一ツ瀬川を望む中世山城と周辺の暮らし 山城城跡・串木遺跡（西都市）	西都原考古博物館 橋本英俊	20名
第3回 R4.11.20	山河に刻まれた西南戦争の記憶 西南戦争関連遺跡総合調査事業	宮崎県埋蔵文化財センター 堀田孝博	28名
第4回 R5.1.15	時代の目安！ 宮崎の火山灰層とその見分け方	宮崎県埋蔵文化財センター 松田清孝	22名
第5回 R5.2.19	古（いにしえ）の時を求めて 羽子場遺跡（美郷町）・湯之宮遺跡（新富町）	宮崎県埋蔵文化財センター 伊東浩二	47名

## ウ 埋文センター施設公開

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財保護啓発の目的で「施設公開」を開催している。令和4年度は、文化財保護強調週間中の11月6日（日）に、「埋文センターで考古学体験」と題して分館において開催した。  
【施設公開「埋文センターで考古学体験」】

開催日	開催場所	内容	参加者
R4.11.6	埋蔵文化財センター分館 総合博物館	土器復元体験、土器拓本体験、発掘疑似体験、石器レプリカ製作体験、ドングリつぶし体験、土器パズル等	702名

## エ 遺跡発掘成果展

埋蔵文化財センターが1990年代に発掘調査した遺跡の資料を展示する遺跡発掘成果展2022「再発見！1990年代調査の遺跡～県南・県西編～」を県立図書館2階特別展示室で開催した。成果展関連講座（ギャラリートーク）および埋文最新情報を実施した。

【遺跡発掘成果展2022「再発見！1990年代調査の遺跡～県南・県西編～」】

開催期間	開催場所	展示遺跡	参加者
R4.8.19 ～ R4.9.4	県立図書館2階 特別展示室	大岩田上村遺跡、王子原遺跡、畑田遺跡、中尾遺跡、蓑原遺跡、鳩菌遺跡、山ノ田第1遺跡、下大五郎遺跡、虎崩・榎木田遺跡、妙見遺跡、樺山・郡元遺跡、坂ノ上遺跡、荒迫遺跡、大谷遺跡、本城原遺跡（15遺跡）	811名

【ギャラリートーク】

開催日	開催場所	ギャラリートーク題名	参加者
R4.8.21	県立図書館2階 特別展示室	ギャラリートーク：再発見！1990年代調査の遺跡 展示解説	12名

R4.8.28	県立図書館2階 特別展示室	ギャラリートーク：再発見!1990年代調査の遺跡 展示解説	29名
---------	------------------	-------------------------------	-----

【埋文最新情報】

開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
R4.8.28	県立図書館2階 視聴覚室	上平遺跡、陣ノ元遺跡、羽子場遺跡	28名

オ 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターがこれまでに発掘調査を行った遺跡について、遺跡ごとに出土遺物を紹介するテーマ展示を年4回行った。一部は埋文講座や遺跡発掘成果展などの事業との連携を図って構成した。

カ 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物等を各地域で展示し、発掘の成果を公開している。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介も行っている。令和4年度は、総合博物館の特別展の関連展示、西南戦争関連遺跡総合調査の成果展示等があった。

開催日	名称	場所	内容	観覧者
R4.9.28 ～ R4.12.11	特別展「発掘された日本列島2022」 関連展示 「山河に刻まれた西南戦争の記憶」	宮崎県総合博物館 エントランス ホール	遺構・遺物の説明・見学	4,612名
R4.10.17 ～ R4.10.28	西南戦争関連遺跡総合調査成果展示会 「西南戦争と七熊山～145年の時を超えて～」	小林市役所	遺構・遺物の説明・見学	540名
R4.10.30	埋蔵文化財センター事業紹介 「埋蔵文化財センターってなあに？」	イオンモール宮崎	埋蔵文化財センターの紹介、体験講座	272名
R4.10.31 ～ R4.11.11	西南戦争関連遺跡総合調査成果展示会 「西南戦争と七熊山～145年の時を超えて～」	小林市役所 須木支所	遺構・遺物の説明・見学	80名
R5.2.25 ～ R5.2.26	広瀬西小学校区芸能文化祭りでの佐土原町内の出土遺物展示	宮崎市佐土原総合文化センター	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	809名

キ 出前講座

地域や学校等からの依頼に応じて、埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて行う出張講座を実施している。それぞれの地域の遺跡や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行った。令和4年度は、16件の講座を実施した。また、オンラインによる対応も行った。

	開催日	学校名・機関名	対象	内容	参加者
1	R4.6.10	西都市立茶臼原小学校6年	小学生	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	14名
2	R4.6.17	宮崎市立加納中学校1年	中学生	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	53名
3	R4.6.30	川南町立通山小学校6年	小学生	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	33名

4	R4.7.1	小林市立東方小学校6年	小学生	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	30名
5	R4.7.8	都農町立都農東小学校6年	小学生	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	17名
6	R4.7.13	日之影町立日之影中学校1年	中学生	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	26名
7	R4.7.16	宮崎大学教育学部附属小学校6年	小学生 保護者	埋蔵文化財センターの紹介、体験講座	160名
8	R4.9.15	久峰シニアスクール	一般	埋蔵文化財センターの紹介、遺物の見学、体験講座	22名
9	R4.9.30	西都市立穂北中学校2年	中学生	埋蔵文化財センターの紹介、講話（台地の成り立ちと火山灰）	38名
10	R4.10.20	小林中央公民館 生涯学習講座	一般	遺構・遺物の説明・見学（西南戦争関連遺跡総合調査）	30名
11	R4.11.12	宮崎市立大宮小学校 PTA	小学生 PTA	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学、体験講座	552名
12	R4.11.16	宮崎市立北中学校区合同研修会	教職員	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	41名
13	R4.11.28	県立五ヶ瀬中等教育学校	中高生	埋蔵文化財センターの紹介、遺物の見学	225名
14	R4.12.3	広瀬西小学校区地域づくり協議会	一般	埋蔵文化財センターの紹介、遺構・遺物の説明・見学	19名
15	R4.12.22	宮崎市立瓜生野小学校6年	小学生	埋蔵文化財センターの紹介、講話（宮崎の地形、段丘の発達と遺跡の分布）	37名
16	R5.2.26	広瀬西小学校区芸能文化祭り	小学生 一般	体験講座	46名

## ク 現地説明会・調査報告会等

発掘調査中の現場を県民の方に見学していただく遺跡の現地説明会や発掘体験、発掘調査が終了した遺跡について、その成果を地元で紹介するための報告会などを開催している。

### 【現地説明会】

	開催日	遺跡名	開催地	内容・対象	参加者
1	R4.10.4	樋口遺跡	五ヶ瀬町	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明 （五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校2年）	19名
2	R4.10.5	樋口遺跡	五ヶ瀬町	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明 （県立五ヶ瀬中等教育学校1～5学年）	183名
3	R4.11.23	樋口遺跡	五ヶ瀬町	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明 （一般）	45名

### 【発掘体験】

	開催日	遺跡名	開催地	内容・対象	参加者
1	R4.10.4	樋口遺跡	五ヶ瀬町	遺物包含層の掘削 （五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校2年）	19名
2	R4.10.5	樋口遺跡	五ヶ瀬町	遺物包含層の掘削 （県立五ヶ瀬中等教育学校1～5学年）	183名

### 【調査報告会】

	開催日	遺跡名	開催地	内容	参加者
	令和4年度は実施せず	—	—	—	—

ケ 見学・研修等で訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ

	実施日	場 所	団体名	内 容	人 数
1	R4.4.23	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	7名
2	R4.5.11	埋蔵文化財センター分館	小林市立小林小学校6年	展示見学	106名
3	R4.5.20	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立宮崎西小学校4年	展示見学	50名
4	R4.5.28	埋蔵文化財センター分館	宮崎民俗学会	研修	13名
5	R4.6.4	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	7名
6	R4.6.8	埋蔵文化財センター分館	延岡市史編さん委員会	研修	5名
7	R4.7.3	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	7名
8	R4.7.30	埋蔵文化財センター分館	まーぶるクラブ	展示見学	17名
9	R4.8.9	埋蔵文化財センター分館	放課後等デイサービス アレグリア	展示見学	12名
10	R4.8.20	埋蔵文化財センター分館	総合博物館 博物館実習	展示見学・研修	8名
11	R4.8.20	埋蔵文化財センター分館	NPO 法人 ふうせん	展示見学	38名
12	R4.11.1	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立木花小学校3年	展示見学	53名
13	R4.11.2	埋蔵文化財センター分館	延岡市立恒富小学校4年	展示見学	27名
14	R4.11.4	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立生目台西小学校4年	展示見学	32名
15	R4.11.4	埋蔵文化財センター分館	都城市立高崎小学校4年	展示見学	42名
16	R4.11.7	埋蔵文化財センター分館	串間市立福島小学校6年	展示見学	45名
17	R4.11.10	埋蔵文化財センター分館	韓国国立羅州博物館	展示見学・視察	5名
18	R4.11.10	埋蔵文化財センター分館	国富町立木脇中学校家庭教育学級	展示見学・研修	5名
19	R4.11.16	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立高岡小学校3年	展示見学	79名
20	R4.11.18	埋蔵文化財センター分館	小林市立紙屋小学校3・4年	展示見学	20名
21	R4.11.24	埋蔵文化財センター分館	日南市立油津小学校6年	展示見学	41名
22	R4.12.3	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	6名
23	R4.12.11	埋蔵文化財センター分館	宮崎大学学芸員課程	展示見学・研修	23名
24	R4.12.15	埋蔵文化財センター分館	埋蔵文化財担当専門職員研修会	研修	24名
25	R4.12.16	埋蔵文化財センター分館	埋蔵文化財担当専門職員研修会	研修	17名
26	R5.1.28	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	6名
27	R5.2.5	埋蔵文化財センター分館	宮崎民俗学会	研修	4名
28	R5.2.18	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	研修	5名
29	R5.3.17	埋蔵文化財センター分館	国際交流サービスツアー	展示見学	28名

(5) 遺物整理及び収蔵状況

ア 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。令和4年度は、登録を完了した遺物と登録待機中の遺物を併せたコンテナ総数は7,259箱となった。

イ 収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。令和4年度は、コンテナ97箱を搬入した。また、東九州自動車道関連の調査で出土した礫の整理を行い868箱の圧縮となった。よって、



本館の収蔵量はコンテナ 14,906 箱となった。

#### ウ 登録作業

分館における令和4年度の実績は3遺跡、コンテナ104箱である。登録累計295遺跡、登録済みコンテナ6,655箱となった。本館における同年度の実績は3遺跡、コンテナ97箱であり、登録累計115遺跡、コンテナ3,956箱となった。よって、令和4年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、410遺跡、コンテナ10,611箱である。

#### (6) 図書資料収蔵状況

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。令和4年度は1,387冊の受け入れがあり、合計収蔵数は86,270冊になる。図書管理システムによる図書資料の登録と、バーコードによる貸出・返却管理を行っている。

#### (7) 刊行物

発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を刊行しているほか、年報等を発行し埋蔵文化財への理解を深める一助とした。

##### ア 令和4年度刊行発掘調査報告書一覧

No.	報告書名	副書名	執筆・編集者
263	湯之宮遺跡	県道川床日向新富停車場線(湯之宮工区)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	伊東浩二
264	羽子場遺跡	中田谷川1通常砂防工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	伊東浩二
265	上平遺跡	県有スポーツ施設整備事業(陸上競技場)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	吉行真人

##### イ その他の資料

発行年・月	広報出版物
R 4. 6	宮崎県埋蔵文化財センター 年報 第26号 令和3(2021)年度
R 5. 3	令和5年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」
R 5. 3	宮崎県埋蔵文化財センター 通信 「ひむか」25号

#### (8) 職員研修・会議等

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所で実施している発掘技術者研修や全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の減少傾向から対面開催の会議等も増えつつあったが、オンラインで開催されたものも複数あった。また、発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、各講習会へ参加している。

#### (9) 職員派遣

市町村の教育委員会などに埋蔵文化財等の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。令和4年度の職員派遣は10件延べ20名であった。

## 第7節 スポーツ指導センター

### 1 設 置

「体育・スポーツに関わる職員等の研修及び専門的・技術的事項の研究並びに県体育館等の機能と併せ、体育・スポーツ指導の一元化・強化を図る」ことを目的として、昭和58年4月1日宮崎県教育庁スポーツ指導センターが設置された。

平成13年4月1日、機構改革により土木部（現県土整備部）から、総合運動公園有料公園施設に関する管理・運営が教育委員会に委任された。

平成18年4月1日、総合運動公園有料公園施設のうち、県教育委員会所管の4つの施設（武道館、硬式野球場、第2硬式野球場、屋内運動場）が土木部に所管換えになるとともに、総合運動公園有料公園施設及び県体育館・ライフル射撃競技場の管理運営業務が指定管理者へ移行した。

### 2 業 務

- (1) 体育及びスポーツに関する専門的、技術的事項の調査及び研究
- (2) 体育及びスポーツの普及及び振興のため必要な事業
- (3) 体育及びスポーツ関係職員の研修
- (4) 体育及びスポーツに関する資料の収集、整理及び活用
- (5) 体育館、新体育館、ライフル射撃競技場及び総合運動公園の利用者の体育及びスポーツの指導
- (6) 体育館、新体育館、ライフル射撃競技場及び総合運動公園有料公園施設の管理

### 3 令和4年度 事業実績

#### (1) スポーツ指導センター事業

##### ① 学校体育指導者養成研修

No.	講座名	期 日	会 場	対 象	人数	内 容	講 師
1	幼児児童の楽しい水遊び	5月17日(火)	[北部] 県立延岡青朋高等学校 フィットネスクラブターザン	幼稚園・保育所 認定こども園等	9	講義 「水難事故の現状とその対応」	延岡市消防本部職員 都城市消防局職員 宮崎市消防局応急手当研修センター職員
		5月24日(火)	[中部] ひなた武道館 ABCクラブ・クラブ	小学校・義務教育学校・ 特別支援学校	13	演習 「心肺蘇生・AEDの使い方」	
		5月26日(木)	[南部] 県立都城さくら聴覚支援学校 スイミング・フィットネス・フィットピア	総合型クラブの指導者	8	実技 「楽しい水遊び(水に慣れる遊び、 浮く、もぐる遊び)」	
2	幼児児童の楽しい運動遊び	8月23日(火)	[南部] 早水公園体育文化センター	幼稚園・保育所 認定こども園等	16	講義・実技 「運動大好き子を育もう！」	澤井雅志氏 (日本体育大学兼任講師)
		8月24日(水)	[北部] クリエイティブセンター門川	小学校・義務教育学校・ 特別支援学校	16		
		8月25日(木)	[中部] ひなた武道館	総合型クラブの指導者	27		
3	小学校体育指導者養成講習会	6月17日(金)	ひなた武道館	小学校教員	14	講義「学習指導要領を踏まえた体育 授業の考え方」 講義・協議・実技「陸上運動系」	山田 侑子 教諭 (日向市立財光寺小学校)
4	小学校体育地区別講習会	7月26日(火)	ひなた武道館	小学校・ 義務教育学校・ 特別支援学校の教員	23	講義「学習指導要領を踏まえた体育 授業の考え方」 講義・協議・実技「陸上運動系」	桐山 雄介 教諭(八代小) 佐々木麻莉枝教諭(西池小) 國師 啓悟 教諭(吾田小) 神村 明美 教諭(北方小) 高須 力樹 教諭(穂北小) 谷山 千織 教諭(新田小) 野元 崇之 教諭(三松小) 尾原 恵 教諭(西小川小) 岩田 賢祐 教諭(高千穂小) 齋藤 洋子 教諭(鞍岡小) 青山福太郎 教諭(乙房小) 新垣 綾香 教諭(勝岡小) 高見 誠信 教諭(美々津小) 渡邊あかり 教諭(北川小)
		7月27日(水)	日南市立北郷小中学校		16		
		7月29日(金)	新富町立上新田小学校		10		
		8月 2日(火)	小林市立小林小学校		23		
		8月 2日(火)	高千穂町立高千穂小学校		14		
		8月 4日(木)	都城市立明和小学校		36		
		8月 5日(金)	延岡市立東小学校		30		
5	中学校・高等学校保健 体育地区別講習会	7月 7日(木)	早水公園体育文化センター	中学校・義務教育学校・ 高等学校・中等教育学校 の保健体育担当教員	6	講義「新学習指導要領を踏まえた保 健体育授業の考え方」	佐藤 友春 教諭 (美郷町立美郷北義務教育学校) 工藤 英世 教諭 (宮崎県立宮崎南高等学校)
		7月 8日(金)	ひなた宮崎県総合運動公園 合宿所・体育館	特別支援学校の教員	12	講義・協議・実技「器械運動・保 健」	
6	学校体育セミナー (水泳運動系)	7月 5日(火)	ひなた宮崎県総合運動公園 合宿所・屋内プール	小学校・義務教育学校・ 特別支援学校の教員	中止	講義「学習指導要領を踏まえた体育 授業の在り方」 講義・協議・実技「水泳運動系」	瀬戸山 剛介 教諭 (都城市立西小学校)
	学校体育セミナー (幼児児童の運動遊 び)	9月 8日(木)	ひなた武道館	幼稚園・保育所・認定こ ども園等 小学校・義務教育学校・ 特別支援学校	19	講義「幼児期運動指針及び幼稚園教 育要領を踏まえた運動遊び指導の考 え方」 講義・実技・演習「幼児児童の運動 遊び」	徳原 宏樹 教諭 (川南町立川南小学校)
	学校体育セミナー (ラグビー・フットボ ール)	9月27日(火)	ひなた武道館	小学校・義務教育学校・ 特別支援学校の教員	28	講義「学校全体で取り組む体力向上 マネジメントの在り方」 講義・協議・実技「ラグビー・フッ グフットボール」	川崎 直人 教諭 (宮崎市立生目台東小学校)
	学校保健体育セミナー (球技：ネット型)	9月29日(木)	ひなた宮崎県総合運動公園 合宿所・体育館	中学校・義務教育学校・ 高等学校・中等教育学校 の保健体育担当教員	13	講義「新学習指導要領を踏まえた保 健体育授業の在り方」 講義・協議・実技「球技：ネット 型」	堀切 一甫 教諭 (都城市立西中学校)
学校保健体育セミナー (ダンス)	11月24日(木)	ひなた武道館	中学校・義務教育学校・ 高等学校・中等教育学校 の保健体育担当教員	9	講義「新学習指導要領を踏まえた保 健体育授業の考え方」 講義・実技・演習「ダンス」	水尾 彰太 教諭 (日南市立南郷中学校)	
7	体育・保健体育指導 力向上研修	5月11日(水) ～13日(金)	熊本県熊本市	小学校・中学校 高等学校の教員	7	「幼児の運動遊び」「水泳運動系」 「陸上運動系」「器械運動」「ダン ス」「球技」「保健」	スポーツ庁教科調査官、大学教授 等
8	体力向上マネジメント指 導者養成研修	12月1日～28日 の任意の3日間	オンライン	指導主事等	2	講義・演習	スポーツ庁教科調査官、大学教授 等

② 競技力向上指導者養成研修

No.	講座名	期 日	会 場	対 象	人数	内 容	講 師
1	運動部活動外部指導者研修会	5月15日(日)	ひなた宮崎県総合運動公園 合宿所 ※対面、オンライン	運動部活動外部指導者 部活動指導員	135	説明「学校部活動から地域部活動へ」 講義「心技体からひも解く育成年代に必要なトレーニング 一休幹トレーニング編」	西田 英司 指導主事 (県教育庁スポーツ振興課) 菅原 康史 氏 (株式会社DONOW代表取締役 理学療法士)
2	運動部活動顧問研修会	7月 1日(金)	ひなた宮崎県総合運動公園	運動部活動顧問 部活動指導員 運動部活動外部指導者 総合型クラブの指導者	56	講義「効率的・効果的な運動部活動の運営について」 実技「バスケットボール、弓道、軟式野球」	當房 孝之 講師(小林西高) 鳥越 和弘 教諭(永久津中) 齋賀 哲也 教頭(延岡星雲高) 加藤 博之 主幹教諭(西階中) 春田 一樹 教諭(東郷中)
3	第1回スポーツ指導者セミナー	6月23日(木)	ひなた宮崎県総合運動公園 合宿所	教職員、ｽﾎｰﾂ指導者	32	講演「部活動監督としての哲学とチーム育成法」	磯谷 竜也 教諭 (学校法人江の川学園 石見智翠館高等学校)
	第2回スポーツ指導者セミナー	2月16日(木)	ひなた武道館	教職員、ｽﾎｰﾂ指導者	63	講演「年中夢求 ～24時間をデザインする～」	平岡 和徳 氏 (熊本県宇城市教育長、熊本県立大津高等学校サッカー部総監督)
4	スポーツ指導者養成事業事前説明	6月23日(木)	ひなた宮崎県総合運動公園 合宿所	スポーツ指導者養成事業 (県外派遣事業) 派遣者	10	説明	
	スポーツ指導者養成事業報告会	2月16日(木)	ひなた武道館	教職員、ｽﾎｰﾂ指導者	48	報告	

□ スポーツ指導者養成事業(県外派遣事業)

No.	氏名	所属	競技名	派遣期間・派遣先
ス ポ ー ツ 指 導 者 養 成 事 業 ( 県 外 派 遣 事 業)	海田 聖彦	串間市立串間中学校	ソフトテニス	令和4年7月29日～7月31日 学校法人清明学園中学校(東京都)
				坂下 泰章
	山内 勉	県立佐土原高等学校	バドミントン	
				岩田 慎二
	濱田 悠暉	県立宮崎海洋高等学校	サッカー	
				草野 汐梨
	椎葉 光弘	県立日向高等学校	ソフトボール	
				池田 海嗣
	長田 大輔	県立佐土原高等学校	バスケットボール	
				鶴衛 美保

## (2) みやぎ広域スポーツセンター事業

## ① 生涯スポーツ指導者養成研修

No.	講座名	期 日	会 場	対 象	人数	内 容	講 師
1	総合型地域スポーツクラブマネジメントセミナー	8月27日(土) ～28日(日)	ひなた武道館	総合型地域スポーツクラブ関係者 市町村生涯スポーツ担当者及びスポーツ推進委員公認資格の取得を希望される方	13	講義1「総合型地域スポーツクラブとは」「総合型地域スポーツクラブの現状」 講義2「クラブマネジャーの役割」 講義3/4「クラブのつくり方Ⅰ・Ⅱ」 講義5/6「クラブの運営Ⅰ・Ⅱ」	太田黒 尚子 アドバイザー (熊本県スポーツ協会) 渡邊 優子 理事長 (NPO法人希楽々) 山田 健次 ゼネラルマネジャー 西田 由実 事務局長 (NPO法人A-lifeなんかん)

## ② 総合型地域スポーツクラブ育成促進事業

No.	項 目	主 な 内 容
1	総合型地域スポーツクラブ育成に関する研修会の開催	地域スポーツ推進研修会 10/12 ※ハイブリッド60名(対面:28名、オンライン32名) クラブ関係者13名
2	総合型地域スポーツクラブへの支援	総合型クラブ訪問・相談・支援 クラブ連絡会議の開催 5/20 クラブ22名、市町村22名 ※ハイブリッド 2/2 クラブ26名、市町村18名 ※ハイブリッド みやぎ広域スポーツセンター事業の運営委員会の開催 4/19 クラブ関係者 7名 1/19 クラブ関係者 5名
3	総合型地域スポーツクラブについての普及・啓発	市町村訪問・相談・支援 情報ネットワークの構築(HP) 啓発用リーフレットの配付
4	総合型地域スポーツクラブに関する情報収集・提供	庁内報告会 5/9、6/1、7/4、8/8、10/13、11/7、12/5、1/12、2/1 総合型クラブ関係三者会議の開催 4/6、8/31、2/22 先進クラブ等視察 12/1、2 高知県 (NPO法人まほろばクラブ南国、NPO法人総合クラブとさ、高知県立障害者スポーツセンター) 各クラブの活動状況等把握

## (3) 宮崎県公立武道館協議会事業

## 武道振興事業

No.	講座名	期 日	会 場	対 象	人数	内 容	講 師
1	地域社会少林寺拳法指導者研修会	9月 3日(土) ～ 4日(日)	[宮崎市] ひなた武道館	地域の少林寺拳法指導者	30	講義・実技	鈴鹿 成正氏、村田 素彦氏 (兵庫県少林寺拳法連盟) 笠 新也氏、良本 昭雄氏 (宮崎県少林寺拳法連盟)
	地方青少年空手道指導者研修会	12月 3日(土) ～ 4日(日)	[宮崎市] ひなた武道館	地域の空手道指導者	35	講義・実技	小松 幸司氏、高橋 昇氏 (全日本空手道連盟) 西内 重夫氏、佐藤 伊織氏 (宮崎県空手道連盟)
2	地方青少年なぎなた錬成大会	1月21日(土) ～22日(日)	[宮崎市] ひなた武道館	小・中・高校生・指導者	35	講義・実技	徳地 昌代氏、佐藤 あき子氏 (全日本なぎなた連盟) 吉村 都代子氏、山田 侑子氏 (宮崎県なぎなた連盟)

(4) その他

① 調査研究

No.	事業名	主な内容
1	体育、スポーツに関する調査研究	本県スポーツ・体育関係者の研修ニーズ調査及び総合型地域スポーツクラブに係る調査
2	武道振興に関する調査研究	各武道団体からの情報収集等による活動状況等把握

② 情報提供

No.	内容	時期	主な内容
1	要覧等 (宮崎の教育、宮崎県の体育・スポーツ、研修センター等)		スポーツ指導センターの本年度事業一覧、年間事業計画、前年度の県有体育施設利用状況、事業実績等の紹介
2	研修一覧	3月下旬発行	スポーツ指導センターが行う研修の紹介
3	ホームページ	随時、更新	スポーツ指導センターの事業概要、講座・事業一覧、年間事業計画、みやざき広域スポーツセンターに関する情報、児童生徒の体力・運動能力調査結果等

③ 総合運動公園有料公園施設、県体育館、ライフル射撃競技場等の管理

No.	主な内容
1	指定管理者（関係機関）との連絡調整に関すること。
2	使用料収入、還付及び減免に関すること。
3	総合運動公園占用許可及び公園内行為許可に関すること。
4	教育財産の維持管理に関すること。

4 県有体育施設年度別利用状況

(1) 県体育館

① 設置

置県80周年を記念し、総合体育施設建設計画の一環として、昭和43年6月に宮崎市大和町(現在の宮崎市宮崎駅東2丁目)に建設された。県民の体格・体力の維持増進をはかり、体育及びスポーツの普及振興に努めている。

② 施設等

設置場所 宮崎市宮崎駅東2丁目4番地1  
 敷地面積 15,975.73㎡  
 構造 本館 鉄筋コンクリート造 2階建 1部3階建  
 別館 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨2階建  
 延面積 7,663.89㎡  
 競技場 本館競技場 1,700.36㎡ 別館第1競技場 621.49㎡  
 別館第2、3競技場 438.40㎡  
 競技場設備 ・本館 バレーボール3面、バスケットボール2面、テニス3面、バドミントン8面、卓球15面、体操10種目、ハンドボール1面、レスリング、ボクシング、フェンシング、剣道  
 ・別館第1 バレーボール1面、バスケットボール1面、バドミントン3面、卓球4面、体操、フェンシング、剣道  
 ・別館第2,3 柔道1面、剣道1面(多目的)  
 観客収容人数 2,345席(固定席1,745席、移動席600席)  
 駐車可能台数 約140台(館周辺駐車場約140台)

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位:人)

施設名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
本館	65,225	94,512	110,834
別館第一	22,412	29,080	32,706
別館第二	6,872	7,005	7,939
別館第三	9,091	10,248	12,355
登はん壁	3,550	2,697	3,104
会議室	3,455	5,517	7,209
計	110,605	149,059	174,147

④ 無料開放事業

(単位:人)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
こどもの日	卓球・バドミントン 等 0	卓球・バドミントン 等 0	卓球・バドミントン 等 33
スポーツの日	卓球・バドミントン 等 72	卓球・バドミントン 等 15	卓球・バドミントン 等 61

(2) 県ライフル射撃競技場

① 設置

昭和53年8月に国民体育大会競技場施設として建設され、2つの射場を有する。

② 施設等

(ア) 設置場所 宮崎市田野町乙4765-1  
 (イ) 競技施設 エアライフル射場 10m(26的)、スモールボアライフル射場 50m(26的)

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位:人)

施設名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
10m射場	629	394	496
50m射場	266	179	133
計	895	573	629

(3) 武道館

① 設置

平成8年12月に建設工事が着工され、平成10年11月に開館の運びとなった。本県における武道の普及・振興のため、“ひむかの国の建武の郷(けんぶのさと)”として位置づけ、和風建築を基調とした切り妻型の屋根で宮崎の山々をイメージして構成され、国際大会にも対応できる機能を備えている。

② 施設等

(ア) 設置場所 宮崎市大字熊野2206-1

(イ) 施設内容 ・主道場～柔・剣道6面可能、バレーボール等球技実施可。  
(常設客席1,534席)

- ・柔道場～4面(150席)
- ・剣・副道場～2面、空手・合気道・なぎなた・少林寺可。(各108席)
- ・弓道場～近的:12人立(98席)、遠的:6人立
- ・相撲場～競技用土俵一面(76席)、練習用土俵一面
- ・トレーニング場～競技者及び初心者両方に対応できる機器を完備。
- ・会議室～大1(200名収容)、中2(30名収容)、小1(20名収容)会議室を有する。

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位:人)

施設名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
主道場	25,692	49,834	80,273
柔道場	10,809	18,787	23,993
剣道場	4,690	10,438	12,788
副道場	6,147	11,787	16,118
相撲場	946	838	712
弓道場(近的)	8,123	12,078	20,709
弓道場(遠的)	4,028	5,332	7,375
トレーニング場	23,301	15,586	16,480
会議室	12,393	18,454	18,889
計	96,129	143,134	197,337

④ 無料開放事業

(単位:人)

区別	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
こどもの日	柔道場	0	柔道場	0	柔道場	83
	弓道場	0	弓道場	0	弓道場	2
	相撲場	0	相撲場	0	相撲場	1
スポーツの日	弓道場	0	弓道場	4	弓道場	0
	相撲場	0	相撲場	0	相撲場	0
	柔道場	0	柔道場	6	柔道場	0

(4) 硬式野球場(サンマリンスタージアム宮崎)

① 設置

平成11年3月建設工事が着工され、平成13年2月に開場となった。平成11年に愛称を一般公募し「サンマリンスタージアム」が選ばれる。愛称に因んでスタンドの配色も「太陽の赤」「海の青」「空の青」を基調としている。内外野とも天然芝張で、プロ野球の公式戦も開催できる規模と設備を有し、令和5年2月には侍ジャパン宮崎キャンプも開催された。

② 設備等

(ア) 設置場所 宮崎市大字熊野1443-12

- (イ) 施設内容
- ・球场面積 30,232㎡
  - ・建築面積 15,900㎡
  - ・グラウンド面積 14,322㎡
  - ・構造 鉄筋コンクリート造4階建
  - ・球場の形式 円形バルコニー席タイプ
  - ・観客収容人数 30,000人(内野18,000人/外野12,000人)
  - ・球場の規格 両翼100m 中堅122m 内外野ともに天然芝張
  - ・その他 ナイター照明灯6基 スコアボード電光表示



③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
グラウンド	28,422	64,792	371,715
大会議室	2,175	2,145	3,700
中会議室	430	280	930
ミーティング室	3,140	3,750	7,620
監督室	90	116	160
コーチ室	496	472	702
計	34,753	71,555	384,827

(5) 屋内運動場 (木の花ドーム)

① 設置

平成14年12月建設工事が着工され、平成16年4月に開場となった。愛称を一般公募し、立地場所である木花の地区名や日向神話のコノハナサクヤヒメをイメージさせ、県産杉材を利用した木造ドームであること等から「木の花ドーム」が選ばれる。天然芝に近い感触をもつ人工芝を採用し、スポーツだけでなくイベント等多目的に利用できる施設となっている。

② 設備等

(ア) 設置場所 宮崎市大字熊野1443-12

(イ) 施設内容

- ・延床面積 11,463㎡
- ・建築面積 10,966㎡
- ・アリーナ面積 8,886㎡
- ・規格 楕円形122m×102.5m 高さ38m
- ・構造 木造(下部鉄筋コンクリート造)平屋建
- ・観客収容人数 観客席800席(アリーナ約5,000人収容可能)
- ・その他 人工芝 照明灯 会議室 スコアボード電光表示

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ドーム	25,267	26,967	41,424
会議室	1,114	1,344	855
計	26,381	28,311	42,279

④ 無料開放事業

(単位：人)

区別	令和2年度	令和3年度	令和4年度
こどもの日	0	0	12

(6) 宮崎県総合運動公園

① 設置

置県80周年記念事業のひとつとして、昭和38年の基本構想発表から昭和56年3月の完工まで17種23競技のできる全国でも有数の運動公園として完成した。自然環境も生かされており、「緑の中のスポーツ公園」として本県スポーツ・レクリエーションの場として広く県民に親しまれ、活用されている。

② 設置等

(ア) 設置場所 宮崎市大字熊野1443-12

(イ) 施設内容

- 敷地面積 1,540,000㎡ (内松林面積520,000㎡)
- ・陸上競技場 第1種公認400m×8コース
- ・第2陸上競技場 300m×6コース
- ・水泳場 50m、25m、室内、幼児プール
- ・第3競技場(サッカー場) 第3種公認400m×8コース (21,000㎡)
- ・ラグビー場 13,175㎡ 155m×85m
- ・補助球技場 10,000㎡ 120m×84m (人工芝)
- ・自転車競技場 400m×6車連
- ・ゲートボール場 25m×20m 4面
- ・軟式野球場A 両翼99m、中堅122m

- ・軟式野球場B 両翼92m、中堅100m
- ・運動広場 東西2面 145m×100m
- ・庭球場 砂入人工芝コート 24面(内、12面照明有:平成18年4月1日設置)
- ・第2硬式野球場 両翼92m、中堅122m(旧市営球場、平成16年4月1日県へ譲渡)
- ・体育館 床面積1,049㎡
- ・トレーニング場(ウエイトトレーニング) 床面積220㎡
- ・第2トレーニング場(ウエイトトレーニング) 床面積168㎡
- ・合宿所 収容人員 88名
- ・屋内練習場 45m×65.8m
- ・駐車可能台数 約3,500台

③ 利用状況

年度別利用状況

(単位：人)

施設名	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
陸上競技場		60,287	75,548	101,283
第2陸上競技場		11,731	14,666	20,102
水泳場		13,052	27,490	24,933
第3競技場 (サッカー場)		22,395	24,922	39,195
ラグビー場		13,378	17,631	24,874
補助球技場		24,676	22,022	31,744
自転車競技場		6,651	6,166	6,242
第2トレーニング場		418	2,039	4,239
ゲートボール場		0	0	4
軟式野球場A		6,124	3,320	2,588
軟式野球場B		6,039	4,247	13,143
運動広場AB		36,280	28,172	44,736
運動広場CD		26,164	22,813	43,082
庭球場		58,364	74,878	90,053
第2硬式野球場		6,668	12,442	53,179
体育館		9,540	7,542	9,667
トレーニング場		2,570	3,155	1,805
屋内練習場		4,707	4,417	10,190
合宿所		3,498	3,660	4,210
計		312,542	355,130	525,269

④ 無料開放事業

(単位：人)

区分	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
こどもの日	運動広場	0	0	146
	室内プール	0	0	19
	庭球場	0	0	19
スポーツの日	運動広場	0	0	5
	室内プール	0	10	0
	庭球場	0	7	75

## 第8節 青少年教育施設

### I 青少年自然の家

#### (1) 青島青少年自然の家

##### ア 設置

青島青少年自然の家は、明治百年記念事業の一つとして設置され、昭和50年9月に開所した社会教育施設である。平成18年度より指定管理者制度を導入している。

この施設は、次の教育目標を達成し、自主性に満ちた心豊かでたくましく生きる力を備えた青少年を育成するため、学校や家庭では得がたい自然体験や集団宿泊生活の機会を与える。

- ・ 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や畏敬の念を育てる。
- ・ 集団宿泊生活を通じて、規律・協同・友愛・奉仕の精神を育てる。
- ・ 野外活動を通じて、心身を鍛錬する。

##### イ 施設の概要

- 設置場所 宮崎市大字熊野字藤兵衛中州 (TEL 0985-58-1711)

- 位置・環境

JR日南線運動公園駅から徒歩約10分、宮崎交通バス青島線運動公園南口から徒歩約10分。

第34回国民体育大会の主会場となった宮崎県総合運動公園の一面に位置し、東は黒潮おどる日向灘と亜熱帯植物が茂る青島を望み、背後には斟鉢山、双石山、加江田溪谷をひかえ、四季温かな気候と自然に恵まれた所である。

また、付近には多目的に活用できる全天候型運動施設「木の花ドーム」や海岸沿いに青島まで続く「トロピカルロード」がある。

- 施設の概要

- ・ 敷地面積 53,843㎡
- ・ 延床面積 6,671㎡ (本館、総合研修館、キャンプ施設)
- ・ 屋外施設 つどいの広場 キャンプ場 キャンプファイヤー場 掲揚台 野外炊飯場  
フィールドアスレチック
- ・ 収容人数 宿泊室 304人  
キャンプ場 150人

- 活動内容

##### 自然観察活動

星空観察、グリーンウォッチング、自然観察「青島探検」、ナイトウォーク、ビーチコーミング、日の出見学、磯の観察、干潟の観察、浜辺の植物観察、バードウォッチング

##### アウトドアスポーツ

ボディボード体験、サーフィン体験、カヌー体験、水泳・海水浴、しおかぜ追跡ハイキング、フィールドアスレチック、ハイキング、登山、オリエンテーリング、ウォークラリー、サイクリング、フォトアドベンチャー、グランドゴルフ、魚釣り体験など

##### 職業体験活動

ビジネスマナー研修

##### 創作体験活動

砂の造形、さるいて創ろう活動、プラホビー、草花しおり、砂絵、流木フォトフレーム作り、塩づくり、貝がらペンダントなど

##### その他の諸体験活動

キャンプファイヤー、古代火おこし体験、親子の触れ合い・遊び体験、史跡巡り、AED研修体験など

ウ 主な令和4年度主催事業実績

事業名	目的	期日	対象	参加者
アスレチック開放DAY	フィールドアスレチック活動を通して、たくましい体と心を育てる。	9月10日(土)	未就学児、小学生、中学生、高校生、保護者、ボランティア	207名
ちびっこアスレチック	フィールドアスレチック活動を通して、家族の交流を図る。	9月11日(日)	未就学児、小学生、中学生、保護者、ボランティア	175名
食育鮮隊ウメモンジャー	宮崎の「食」と「農」について体験的に学ぶ活動を通して、食べ物を大事にする心を育てる。	5月8日(日)	小学生、ボランティア	20名
		7月9日(土)～		22名
		7月10日(日)		
		9月4日(日)		19名
		11月19日(土)～ 11月20日(日)		21名
まなBOSAI	家族で様々な防災体験活動を行い、家族の防災意識を高めるとともに、家族内、家族間の交流を図る。	10月2日(日)	未就学児、小学生、中学生、保護者、ボランティア	643名
めざせ!山頂	登山活動を通して、心身を鍛えるとともに参加者同士の交流を深め、自然に親しむ態度を育てる。	11月5日(土)	未就学児、小学生、中学生、高校生、ボランティア	52名
メイドイン自然の家	創作活動を通して、相違工夫を凝らしながらものを作る喜びを感じるとともに、家族の絆を深める。	12月18日(日)	小学生、中学生、保護者、講師	26名

エ 利用状況

○ 利用状況（令和4年度）

利用団体区分	項目	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
保育園、幼稚園		44	2,153	0	2,153
小学校		138	8,168	6,675	14,887
中学校		5	495	72	567
高校		42	1,178	1,453	2,643
高等専門学校		0	0	0	0
専門学校		7	591	203	795
短大、大学		1	76	302	379
その他の学校		1	692	0	21
少年団体		204	9,736	2,147	13,172
青年団体		5	208	358	574
その他		49	2,571	288	2,873
合計		496	25,868	11,498	38,064

○ 年度別利用状況

年度	項目	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
平成17年度		461	27,858	28,306	54,447
18		707	37,364	31,943	70,701
19		774	43,927	34,982	81,156
20		830	46,316	34,051	83,442
21		822	45,044	33,855	80,954
22		887	45,230	28,361	74,821
23		691	42,087	33,260	76,886
24		618	42,252	34,194	77,197
25		566	34,832	28,951	64,999
26		576	35,342	25,283	61,209
27		541	33,104	27,805	61,451
28		511	35,885	26,384	62,423
29		566	36,616	26,593	64,064
30		559	43,051	24,151	68,156
令和元年度		549	40,011	22,237	63,142
2		425	20,035	5,014	24,961
3		310	17,279	7,463	24,787
4		496	25,868	11,498	38,064

(2) おかばき青少年自然の家

ア 設 置

おかばき青少年自然の家は、青少年を自然に親しませ、集団宿泊生活を通じて、その情操や社会性を豊かにし、心身を鍛練し、もって健全なる育成を図ることを目的とする社会教育施設である。

昭和57年3月本館建設に着手して58年3月に完工し、同年4月に開所した。また、59年3月には野外教育施設が完工し、平成9年3月に天体観測ドームが完工した。平成18年度より指定管理者制度を導入している。

この施設は、次の教育目標を達成し、自主性に満ちた心豊かでたくましく生きる力を備えた青少年を育成するため、学校や家庭では得がたい自然体験や集団宿泊生活の機会を与える。

- ・ 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や畏敬の念を育てる。
- ・ 集団宿泊生活を通じて、規律・協同・友愛・奉仕の精神を育てる。
- ・ 野外活動を通じて、心身を鍛練する。

イ 施設の概要

○ 設置場所 延岡市行藤町760番地3 (TEL 0982-38-0272)

○ 位置・環境

延岡市の西部に位置し、市中心部から約13kmの自然林の中にある。

周辺には海拔831mの行藤山(雄岳)・落差76.6mの行藤の滝・74haの明治百年記念県民の森・行藤神社・舞野神社などの史跡・名勝があり、九州自然歩道おかばきコースなど環境に恵まれている。

○ 施設の概要

- ・ 敷地面積 20,379㎡
- ・ 延床面積 4,196㎡ (本館、野外炊飯場、キャンプ倉庫、キャンプトイレ)
- ・ 屋外施設 キャンプ場、営火場、運動広場、つどいの広場
- ・ 収容人数 宿泊室 200人  
キャンプ場 125人
- ・ 天体観測ドーム 直径5mドーム内に口径400mmカセグレン式反射望遠鏡設置

○ 活動内容

自然観察活動——星空観察(天体観察)、野鳥観察、植物・樹木観察、昆虫観察、自然散策

アウトドアスポーツ——行藤山登山・滝トレッキング・展望台ハイキング、沢登り(沢歩き)、沢遊び、オリエンテーリング、追跡ハイキング、ウォークラリー、イニシアティブゲーム、マス釣り・マスつかみ・マス調理

職業体験活動——障がい者や高齢者の疑似体験

創作体験活動——木のペンダント、プラホビー、木のペナント、紙粘土と木のクラフト、マイ箸作り、木の実細工、杉焼き板細工、陶芸体験(おかばき焼き)

その他の諸体験活動——キャンプファイヤー、キャンドルのつどい、レクリエーションゲーム、館内フォトアドベンチャー、館内ミニ探検ゲーム、AED研修、子育て体験、野外炊飯(炊さん)、ダンボールハウス作りなど

ウ 主な令和4年度主催事業実績

事業名	目的	期日	対象	参加者
チャレンジ山楽隊	登山を通して人と人との交流や家族の絆を深めるとともに、むかばきの自然と新緑の美しさ・素晴らしさを堪能し、自然に対する興味・関心を持ってもらう。	4月17日(日) 1月8日(日)	未就学児、小学生、 中学生、高校生、一般	55名 38名
すまいる家族大集合!	大自然の中での野外活動を通して、家族の絆を深めるとともに、家族同士の交流を目的とする。	4月23日(土)～ 4月24日(日) 7月3日(日) 9月23日(金) 10月16日(日)	未就学児、小学生、 中学生、保護者	35名 24名 44名 25名
むかばきオープンデー	施設を開放することにより、地元住民を始め、多くの方々に自然の家を理解してもらい、地域の活性化に寄与する。また、家族で「春のむかばき」を楽しみながら、自然の家及び周辺環境への関心を深めてもらう。	5月3日(火) 5月4日(水)	全年齢対象	324名 207名
わいわい楽しい昼食会	生涯にわたって健康で豊かな人間性を育むため、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することのできる人間を育成する。	6月 12日間 7月 2日間 8月 3日間 9月 6日間 1月 7日間 2月 8日間 3月 2日間	未就学児、引率者	341名 40名 44名 96名 139名 160名 50名
むかばきひとり旅	小学生・中学生が家庭を離れ、列車やバスを利用してむかばき青少年自然の家までひとり旅をすることにより、自立心を身につけるとともに、集団生活や冒険的な活動を通して、たくましい心と体を育てる。	7月16日(土) ～7月18日(月) 9月10日(土) ～9月11日(日)	小学生、中学生、 ボランティア	57名 44名
むかばき青少年自然の家まつり	施設を開放することにより、地元住民を始め、多くの方々に自然の家を理解してもらい、地域の活性化に寄与する。また、家族で「秋のむかばき」を楽しみながら、自然の家及び周辺環境への関心を深めてもらう。	11月6日(日)	全年齢対象	502名
ハンドメイド塾1～ザ・にっぽんのお正月～	手作りのお飾りでお正月を迎える準備をする。「手作り」を通して、作る喜びを味わう。	12月18日(日)	未就学児、小学生、 中学生、一般	52名



エ 利用状況

○ 利用状況（令和4年度）

利用団体区分	項目	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
保育園、幼稚園		101	2,617	213	2,836
小学校		47	2,721	2,066	4,878
中学校		7	322	391	634
高校		32	851	871	1,722
高等専門学校		0	0	0	0
専門学校		0	0	0	0
短大、大学		2	65	124	190
その他の学校		0	0	0	0
少年団体		42	1,386	363	1,751
青年団体		10	186	71	269
その他		81	3,376	320	3,696
合計		322	11,524	4,419	15,976

○ 年度別利用状況

年度	項目	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
平成17年度		250	12,890	14,248	27,362
18		386	15,147	15,871	31,210
19		592	17,850	17,667	36,138
20		567	21,093	17,987	39,213
21		538	19,786	16,543	36,523
22		448	17,262	14,703	32,077
23		443	19,539	16,401	36,119
24		455	20,310	16,090	36,536
25		495	21,592	16,237	37,989
26		482	20,222	14,281	34,709
27		532	21,854	14,015	36,121
28		515	21,463	13,698	35,394
29		527	20,665	12,760	33,573
30		542	21,490	14,752	36,690
令和元年度		472	18,778	12,686	31,601
2		271	8,379	2,603	11,020
3		244	9,094	3,497	12,644
4		322	11,524	4,419	15,976

### (3) 御池青少年自然の家

#### ア 設 置

御池青少年自然の家は、青少年を自然に親しませ、自然の中での集団宿泊生活を通じて、豊かな情操や社会性を育むとともに、心身を鍛練し、もって健全な育成を図ることを目的とする社会教育施設として、平成3年10月に開所した。平成18年度より指定管理者制度を導入している。

この施設は、次の教育目標を達成し、自主性に満ちた心豊かでたくましく生きる力を備えた青少年を育成するため、学校や家庭では得がたい自然体験や集団宿泊生活の機会を与える。

- ・ 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や畏敬の念を育てる。
- ・ 集団宿泊生活を通じて、規律・協同・友愛・奉仕の精神を育てる。
- ・ 野外活動を通じて、心身を鍛練する。

#### イ 施設の概要

○ 設置場所 都城市夏尾町5988-30 (TEL 0986-33-1414)

#### ○ 位置・環境

都城市の西部、市中心部から約25km離れた霧島錦江湾国立公園内に位置している。

西に高千穂峰(1,574m)を仰ぎ、北東には牧草場が広がるなど、山間部にありながら空間的な広がりを持っているので十分な開放感を与える。

なお、施設の名称にもなっている御池は、施設の西にある周囲4km、水深103mの霧島山系中最大の火口湖であり、湖の西岸は全国でも4ヶ所という野鳥の森に指定(環境省指定)されている。この雄大な自然を利用した高千穂峰登山・御池野鳥の森ハイキング・天体観察などの魅力的な活動が展開される。

#### ○ 施設の概要

- ・ 敷地面積 43,163㎡
- ・ 延床面積 4,210㎡ (本館、体育館、キャンプ施設)
- ・ 屋外施設 キャンプ場、営火場、運動広場、つどいの広場
- ・ 収容人数 宿泊室 200人  
キャンプ場 246人

#### ○ 活動内容

自然観察活動

霧島山登山、御池ハイキング、御池野鳥の森ハイキング、ナイトハイキング、追跡ハイキング、霧島ジオハイキング、ウォークラリー、オリエンテーリング、ハンターゲーム、魚釣り、バードウォッチング、ネイチャーゲーム、グリーンアドベンチャー、天体観察、狭野神社ウォークラリーなど

アウトドアスポーツ

スポーツレクリエーション(ムーンカート、フリスビー・ドッチボール・グランドゴルフ)、フォトアドベンチャー、沢遊びなど

防 災

防災カルタ、消火器体験、煙体験、KYT(危険予知トレーニング)、防災講習、手作りランプ、防災マップ作成、ロープワークなど

創作体験活動

ホーホルダー、記念盾、焼き板、写真立て、竹細工(竹トンボ、はし、竹ケン玉)、プラホビー、木の実細工、落ち葉のしおり、陶芸、レザークラフトなど

その他の諸体験活動

スケッチ・写真、火おこし体験、茶道、野外炊飯、天体アドベンチャー、屋内活動(追跡ハイキング、フォトアドベンチャー)、キャンプファイヤー、キャンドルファイヤーなど

ウ 主な令和4年度主催事業実績

事業名	目的	期 日	対 象	参加者
森のチビッコひろば	自然の中での遊びを通して、幼児の体や心を育てるとともに、協調心や創造力を培う。	6月 4日間 9月 6日間 10月 9日間 11月 10日間 12月 6日間 1月 1日間 2月 3日間	未就学児	123名 144名 210名 324名 118名 24名 93名
防災学びんぐスクール	防災士の資格を有する御池青少年自然の家の職員が、霧島山の噴火をはじめとする自然災害に対して、地域の特色を生かし、地域と連動した学校防災の取組を支援する。また、この取組を通して児童生徒の防災に対する実践的な態度や自然に対する畏敬の念及び自然に親しむ態度の育成に寄与する。	5月25日(水) 11月8日(火)、15日(火)、21日(月) 12月5日(月)、26日(月) 1月13日(金)、20日(金)、26日(木) 3月11日(土)	小学生、中学生	27名 268名 123名 153名 23名
チャレンジ「ぼうさい」～もくもくもっくんハウス	災害への備えと災害時に必要な知識と技能などについて、体験活動を通じて学び、防災に対する実践的な態度を身につける。	5月10日(火) 6月23日(木)、24日(金)、28日(火)、29日(水) 7月6日(水) 9月13日(火) 10月4日(火) 11月7日(月)、9日(水) 12月19日(月) 1月17日(火) 2月14日(火) 3月13日(月)、20日(月)、27日(月)	未就学児、小学生、引率者	84名 239名 47名 39名 80名 74名 105名 48名 130名 254名
みいけに泊まろう！ 通学合宿	家庭を離れ、テレビやゲーム、パソコンの無い集団宿泊生活を送りながら通学する体験を通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身につけ、自立心と共に連帯感や協調性を育てる。	7月3日(日)～7月8日(金) 9月25日(日)～9月30日(金) 11月20日(日)～11月23日(水) 11月27日(日)～12月2日(金) 12月5日(月)～12月9日(金)	小学生、保護者	59名 43名 50名 24名 14名
みいけオープンデー 「やまびこ祭」	自然の家で行う創作活動等を実際に体験する機会や、地域の郷土芸能を鑑賞する機会等を祭りとして提供することにより、広く県民に施設の理解を図る。	10月23日(日)	全年齢対象	703名

エ 利用状況

○ 利用状況（令和4年度）

項目 利用団体区分	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
保育園、幼稚園	25	739	204	2,124
小学校	41	2,532	1,226	2,591
中学校	10	570	243	881
高校	12	178	378	540
高等専門学校	0	0	0	0
専門学校	2	87	86	175
短大、大学	2	143	0	143
その他の学校	0	0	0	0
少年団体	31	901	457	1,369
青年団体	0	0	0	0
その他	108	4,495	797	5,527
合計	231	9,645	3,391	13,350

○ 年度別利用状況

項目 年度	利用団体数	利用実人員	宿泊延人員	利用延人員
平成17年度	278	18,202	21,400	40,164
18	360	23,258	19,050	42,642
19	368	24,444	18,854	44,306
20	402	26,750	18,200	46,034
21	351	25,828	15,287	42,294
22	261	18,860	12,264	31,248
23	13	425	56	483
24	223	17,092	4,338	21,985
25	353	24,433	9,567	34,973
26	335	24,948	11,222	36,698
27	374	26,061	11,109	37,434
28	375	24,958	10,336	35,247
29	335	23,101	8,243	31,460
30	362	27,515	7,504	35,161
令和元年度	390	25,451	9,175	34,689
2	177	8,439	2,431	10,892
3	171	6,944	3,100	10,075
4	231	9,645	3,391	13,350